

(様式第10)

琉大西総第406号
令和7年10月3日
開設者名 国立大学法人琉球大学
学長 喜納 育江

厚生労働大臣 殿

琉球大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
氏名	国立大学法人琉球大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

琉球大学病院

3 所在の場所

〒901-2725
電話(098) 894 — 1301

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科				有			
内科と組み合わせた診療科名等							
○	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科	○	4腎臓内科
	5神経内科	○	6血液内科	○	7内分泌内科		8代謝内科
○	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科		6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科		11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	内分泌代謝内科	2	リウマチ内科	3	脳神経内科	4	乳腺内分泌外科	5	形成外科
6	腎泌尿器外科	7	耳鼻咽喉外科	8	頭頸部外科	9	病理診断科	10	リハビリテーション科
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
----	-----	----	----	----	----

40	6	4	0	570	620	(単位:床)
----	---	---	---	-----	-----	--------

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	394	18	400.2	看護補助者	42.1	診療エックス線技師	0
歯科医師	12	2	12.4	理学療法士	21	臨床検査技師	47.8
薬剤師	47	1	47.8	作業療法士	9	衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	8.5	その他	0
助産師	42	0	42	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	677	25	695.6	臨床工学士	25.8	医療社会事業従事者	0
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	93
歯科衛生士	5	0	5	歯科技工士	0	事務職員	150.3
管理栄養士	17	0	17	診療放射線技師	38	その他の職員	113.2

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	33.2	眼科専門医	7
外科専門医	25.2	耳鼻咽喉科専門医	17
精神科専門医	6	放射線科専門医	8.5
小児科専門医	18	脳神経外科専門医	5
皮膚科専門医	9	整形外科専門医	21
泌尿器科専門医	8	麻酔科専門医	20.9
産婦人科専門医	16	救急科専門医	5
		合計	199.8

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (鈴木 幹男 任命年月日 令和 7 年 4 月 1 日

医療安全管理委員会委員長、医療安全調査委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	430.4 人	3.4 人	433.8 人
1日当たり平均外来患者数	996.8 人	51.9 人	1048.7 人

1日当たり平均調剤数	838	剤
必要医師数	103.6	人
必要歯科医師数	3.6	人
必要薬剤師数	15	人
必要(准)看護師数	253	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	363.95 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	16 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	70	m ²	病床数	10 床
	[移動式の場合]	台数	0	台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	25.85 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名	調剤室			
化学検査室	356 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析装置、全自動免疫測定装置 等		
細菌検査室	125 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	微生物分類同定分析装置、全自動迅速同定感受性測定装置 等		
病理検査室	482 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	凍結切片作製装置、自動免疫染色機 等		
病理解剖室	214 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台等		
研究室	7111 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
講義室	350 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1 室	収容定員	285 人
図書室	1540 m ²	鉄筋コンクリート	室数	8 室	蔵書数	96,688 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	71.3	%	逆紹介率	74.5	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		10,841 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		12,137 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		772 人		
	D: 初診の患者の数		16,294 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長	選定理由	利害	委員の要件
----	----	-----	------	----	-------

氏名	所属	(○を付す)	選定理由	関係	該当状況
内門 泰斗	鹿児島大学病院 医療安全管理部 副部長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
望月 保博	かりゆし法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者	無	1
照喜名 通	認定NPO法人アンビシャス 副理事長		医療を受ける立場にある者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
大学公式ホームページ及び病院公式ホームページでの公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	0人
子宮内細菌叢検査 2	6人
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	28人
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	0人
子宮内膜受容能検査(ERA)	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	5
取扱い患者数の合計(人)	34人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	1
取扱い患者数の合計(人)	0人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	CAR-T細胞療法	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 再発難治性悪性リンパ腫および多発性骨髄腫症例に対して、CAR-T細胞療法である。			
医療技術名	経皮的僧帽弁接合不全修復術	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 経皮的僧帽弁接合不全修復術は、カテーテルを用いて僧帽弁閉鎖不全症を治療する低侵襲の手術である。主に開胸手術が難しい高リスク患者に適用され、回復が早く、身体への負担が少ないのが特徴である。本手術は、日本循環器学会に認定された医療機関のみが施行可能な治療法である。			
医療技術名	経皮的バルーン肺動脈形成術	取扱患者数	42
当該医療技術の概要 慢性血栓塞栓性肺高血圧症(CTEPH)に対し、カテーテルを用いて肺動脈内の閉塞・狭窄病変をバルーンで拡張する低侵襲治療である。手術適応外例や外科治療困難例に対して有効である。本治療は熟練を要する高度技術であり、血管損傷や肺出血等のリスク管理を含む集中治療体制が不可欠であり、県内の他施設では施行困難な高度専門医療として提供している。			
医療技術名	生体肝移植術	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 生体ドナーから肝を部分的に提供し、肝不全の患者の肝臓を全摘出して移植する手術。			
医療技術名	胸腔鏡補助下食道切除術	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 開胸することなく小切開で胸腔鏡を用いて食道がんを切除し、再建する手術。			
医療技術名	アミノレブリン酸による術中蛍光診断	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 アミノレブリン酸は、悪性神経膠腫や髄膜腫では、細胞内に取り込まれた後、ミトコンドリア内にてプロトポルフィリンIXへと代謝され、腫瘍細胞内に選択的に蓄積する。プロトポルフィリンIXは、光高感受性物質であり、青色光線(400-410nm)により励起されると、赤色発光するため、術中に腫瘍と正常組織との識別が可能となり、摘出率の向上及び予後の改善に重要な役割を果たしている。			
医療技術名	画像誘導装置を用いた脳腫瘍摘出術	取扱患者数	80
当該医療技術の概要 脳腫瘍摘出術中にニューロナビゲーションシステムを用いて頭蓋内病変の位置と周囲神経線維、脳神経、主要血管の位置を同定し、より安全で確実な病変の摘出と神経機能温存を可能にする技術である。			
医療技術名	術中ICG蛍光血管撮影	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 術中にインドシアングリーン(ICG)を静脈内投与し、赤外線による蛍光により頭蓋内血管を同定する。脳腫瘍における栄養血管の評価、周囲静脈系の評価に有効である。また、血行再建術やクリッピング術において、処置の精度、血管温存の確認などの評価が術中に可能であり、安全で質の高い手術を行うための技術である。			
医療技術名	術中神経機能モニタリング	取扱患者数	80
当該医療技術の概要 術中に誘発電位や筋電図を記録することにより、神経機能を直接評価しつつ手術を行うことが可能となる技術である。運動誘発電位、脳神経モニタリング、聴性脳幹反応、体性感覚誘発、視覚誘発電位があり神経機能温存のために有用である。			
医療技術名	成人脊柱変形手術	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 加齢に伴う脊椎の高度に変形した脊柱を矯正・固定する手術で、脊椎専門医により高難度手術技術を要する。県内では本院のみで施行している。			
医療技術名	症候性側弯症手術	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 脳性麻痺や筋ジストロフィーなど、基礎疾患を伴う高度変形した脊柱側弯を矯正・固定する手術で、高難度手術技術を要する。			

県内では本院のみで施行している。			
医療技術名	悪性骨・軟部腫瘍切除後の骨欠損に対する自家液体室素処理骨移植術	取扱患者数	1
<p>当該医療技術の概要</p> <p>悪性骨・軟部腫瘍の広範切除後に生じる骨欠損に対して、自家液体室素処理骨移植を行い再建する手術。県内で唯一の悪性骨・軟部腫瘍診療施設であり、上記技術を用いて手術を行っている。</p>			
医療技術名	ハイブリッド手術室における骨盤・寛骨臼骨折に対する経皮的スクリュー固定術	取扱患者数	4
<p>当該医療技術の概要</p> <p>脆弱性骨盤・寛骨臼骨折および転移性骨腫瘍による病的骨折に対し、ハイブリッド手術室で術中にロボティック C アームで撮影した cone beam CT をもとにナビゲーションシステムを使用し、低侵襲で正確な経皮的スクリュー固定術を行う。</p>			
医療技術名	患者適合型矯正ガイドを用いた骨切り術(前腕・上腕)	取扱患者数	2
<p>当該医療技術の概要</p> <p>橈骨遠位部骨折・上腕遠位部骨折後の変形治癒に対して、CT画像を用いた各患者特有の変形矯正骨ガイドを用いた矯正骨切り術を行っている。沖縄県では当院のみで実施している術式である。</p>			
医療技術名	HBOC患者に対する予防的卵管卵巣摘出術	取扱患者数	5
<p>当該医療技術の概要</p> <p>HBOC患者に対して、予防的に卵管卵巣摘を行う手術である。</p>			
医療技術名	癒着胎盤例に対する子宮全摘術	取扱患者数	3
<p>当該医療技術の概要</p> <p>癒着胎盤に対する子宮全摘術は、大量出血により致死になる可能性のある疾患であり、高い技術と術前の綿密な準備を要す。 術前の重症度評価と、麻酔科、泌尿器科、放射線科、ICU、小児科との連携により救命し得る。</p>			
医療技術名	広汎子宮頸部摘出術	取扱患者数	1
<p>当該医療技術の概要</p> <p>妊孕性温存を希望する若年の子宮頸癌(初期浸潤癌)に対し行う手術である。</p>			
医療技術名	妊孕性温存目的卵巣凍結	取扱患者数	5
<p>当該医療技術の概要</p> <p>小児(0～14才)のがん患者が、がん治療により妊娠する能力を失ってしまう可能性がある場合、がん治療前に卵巣を凍結し、がん克服後に融解し、移植する技術である。</p>			
医療技術名	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術	取扱患者数	40
<p>当該医療技術の概要</p> <p>腹腔鏡下に子宮頸癌に対して行う手術である。</p>			
医療技術名	ロボット支援下子宮良性腫瘍手術	取扱患者数	2
<p>当該医療技術の概要</p> <p>子宮に発生する良性腫瘍に対する手術であり、従来の開腹手術と比較して傷が小さく、痛みが軽度で、手術後の回復が早い、手術中の出血量が少ない等の利点がある。</p>			
医療技術名	ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術	取扱患者数	20
<p>当該医療技術の概要</p> <p>子宮に発生する悪性腫瘍に対する手術であり、従来の開腹手術と比較して傷が小さく、痛みが軽度で、手術後の回復が早い、手術中の出血量が少ない等の利点がある。</p>			
医療技術名	脊髄性筋萎縮症に対する遺伝子補充療法	取扱患者数	1
<p>当該医療技術の概要</p> <p>脊髄性筋萎縮症(SMA)に対して、原因遺伝子を組み込んだ治療用ベクター(ウイルス)が細胞に正常な遺伝子を運び込み、SMAの原因となるSMNタンパク質の生成を助けることで、筋力低下や筋萎縮を防ぐ治療であり、治療を行う事で、SMA患者の生命予後や運動機能の改善が期待される治療である。</p>			
医療技術名	ムコ多糖症2型に対する酵素補充療法	取扱患者数	3
<p>当該医療技術の概要</p> <p>体内に蓄積されるムコ多糖を、酵素補充療法により分解し、全身状態の改善や中枢神経症状の抑制を行う治療法。</p>			
医療技術名	若年性特発性関節炎に対する生物学的製剤治療	取扱患者数	40
<p>当該医療技術の概要</p> <p>若年性特発性関節炎患者に対し、特定の分子を標的とする生物学的製剤を用いて治療を行う事により、より良い疾患の安定性</p>			

を目指す。			
医療技術名	先天性横隔膜ヘルニア患者に対する、体外式膜型人工肺(ECMO)治療	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
先天性横隔膜ヘルニアによる肺低形成に対し、上記治療により酸素化の改善、安定を目指す。			
医療技術名	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	取扱患者数	7
当該医療技術の概要			
膀胱悪性腫瘍に対して、ロボット支援下で膀胱を全摘する術式である。県内においては施行している施設が少ない。			
医療技術名	腹腔鏡下後腹膜リンパ節郭清術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
後腹膜リンパ節郭清術を腹腔鏡下で施行する術式である。			
医療技術名	人工尿道括約筋埋込術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
重症腹圧性尿失禁に対する根治治療であり、県内では唯一当院で施行している。			
医療技術名	限局性前立腺癌に対する小線源刺入療法	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
前立腺癌の根治を目的とした治療法の一つである小線源刺入療法を県内では唯一実施している。			
医療技術名	悪性腫瘍切除後の複合組織移植(遊離皮弁・筋皮弁など)	取扱患者数	50
当該医療技術の概要			
頭頸部がんや乳がんのあとに顕微鏡下に血管吻合を用いて遊離複合組織を移植する手術			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	30
取扱い患者数の合計(人)	541

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	73	原発性胆汁性胆管炎	36
2	筋萎縮性側索硬化症	9	74	原発性硬化性胆管炎	1
3	原発性側索硬化症	1	75	自己免疫性肝炎	7
4	進行性核上性麻痺	11	76	クローン病	116
5	パーキンソン病	52	77	潰瘍性大腸炎	90
6	大脳皮質基底核変性症	2	78	好酸球性消化管疾患	2
7	ハンチントン病	2	79	コステロ症候群	1
8	シャルコー・マリー・トウス病	3	80	若年性特発性関節炎	10
9	重症筋無力症	39	81	筋ジストロフィー	7
10	多発性硬化症／視神経脊髄炎	46	82	遺伝性周期性四肢麻痺	2
11	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	2	83	アトピー性脊髄炎	1
12	封入体筋炎	1	84	脊髄空洞症	2
13	多系統萎縮症	3	85	脊髄髄膜瘤	3
14	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	5	86	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	5
15	ライソゾーム病	14	87	前頭側頭葉変性症	2
16	副腎白質ジストロフィー	1	88	ビッカースタッフ脳幹脳炎	2
17	ミトコンドリア病	9	89	アレキサンダー病	1
18	もやもや病	3	90	レノックス・ガストー症候群	4
19	亜急性硬化性全脳炎	5	91	ウエスト症候群	2
20	進行性多巣性白質脳症	1	92	レット症候群	1
21	HTLV-1関連脊髄症	13	93	スタージ・ウェーバー症候群	1
22	特発性基底核石灰化症	1	94	結節性硬化症	14
23	全身性アミロイドーシス	12	95	色素性乾皮症	1
24	遠位型ミオパチー	2	96	先天性魚鱗癬	1
25	神経線維腫症	15	97	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	16
26	天疱瘡	28	98	特発性後天性全身性無汗症	9
27	表皮水疱症	1	99	眼皮膚白皮症	1
28	膿疱性乾癬(汎発型)	16	100	肥厚性皮膚骨膜炎	1
29	高安動脈炎	14	101	マルファン症候群／ロイス・ディーツ症候群	12
30	巨細胞性動脈炎	1	102	エーラス・ダンロス症候群	3
31	結節性多発動脈炎	4	103	ウィルソン病	4
32	顕微鏡的多発血管炎	12	104	低ホスファターゼ症	2
33	多発血管炎性肉芽腫症	12	105	プラダー・ウィリ症候群	1
34	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	9	106	脆弱X症候群関連疾患	1
35	悪性関節リウマチ	2	107	ファロー四徴症	1
36	バージャー病	3	108	アルポート症候群	1
37	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	109	抗糸球体基底膜腎炎	2
38	全身性エリテマトーデス	125	110	一次性ネフローゼ症候群	11
39	皮膚筋炎／多発性筋炎	60	111	紫斑病性腎炎	4
40	全身性強皮症	83	112	間質性膀胱炎(ハンナ型)	4
41	混合性結合組織病	14	113	カーニー複合	1
42	シェーグレン症候群	51	114	副甲状腺機能低下症	1
43	成人発症スチル病	3	115	偽性副甲状腺機能低下症	2
44	再発性多発軟骨炎	2	116	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2
45	ベーチェット病	23	117	フェニルケトン尿症	2
46	特発性拡張型心筋症	32	118	プロピオン酸血症	1
47	肥大型心筋症	5	119	イソ吉草酸血症	1
48	再生不良性貧血	6	120	ポルフィリン症	1
49	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	121	肝型糖原病	1
50	特発性血小板減少性紫斑病	12	122	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	1
51	原発性免疫不全症候群	6	123	原発性高カイロミクロン血症	1
52	IgA 腎症	62	124	脳腱黄色腫症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

53	多発性嚢胞腎	29	125	家族性地中海熱	3
54	黄色靱帯骨化症	5	126	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	1
55	後縦靱帯骨化症	46	127	強直性脊椎炎	4
56	広範脊柱管狭窄症	5	128	骨形成不全症	3
57	特発性大腿骨頭壊死症	84	129	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
58	下垂体性ADH分泌異常症	25	130	後天性赤芽球癆	6
59	下垂体性PRL分泌亢進症	12	131	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	2
60	クッシング病	4	132	クロンカイト・カナダ症候群	2
61	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	21	133	非特異性多発性小腸潰瘍症	2
62	下垂体前葉機能低下症	84	134	胆道閉鎖症	2
63	体)	2	135	アラジール症候群	2
64	先天性副腎皮質酵素欠損症	5	136	IgG4関連疾患	5
65	サルコイドーシス	31	137	黄斑ジストロフィー	2
66	特発性間質性肺炎	5	138	アッシャー症候群	2
67	肺動脈性肺高血圧症	33	139	好酸球性副鼻腔炎	35
68	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	32	140	先天異常症候群	1
69	リンパ脈管筋腫症	4	141	カルニチン回路異常症	1
70	網膜色素変性症	17	142	無虹彩症	1
71	バッド・キアリ症候群	4	143	先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症	3
72	特発性門脈圧亢進症	2	144	特発性多中心性キャスルマン病	4

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	144
合計患者数(人)	1779

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医療DX推進体制整備加算6	・呼吸ケアチーム加算
・情報通信機器を用いた診療に係る基準	・術後疼痛管理チーム加算
・特定機能病院入院基本料(一般7:1、精神13:1、結核7:1) (入院栄養管理体制加算)	・後発医薬品使用体制加算1
・入院栄養管理体制加算	・バイオ後続品使用体制加算
・救急医療管理加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・超急性期脳卒中加算	・病棟薬剤業務実施加算2(病棟業務向上加算)
・診療録管理体制加算1	・データ提出加算2のイ
・医師事務作業補助体制加算1(20対1)	・入退院支援加算2(入院時支援加算、総合機能評価加算)
・急性期看護補助体制加算(25対1看護補助者 5割以上) (夜間100対1急性期看護補助体制加算) (夜間看護体制加算)	・入退院支援加算3
・看護職員12対1夜間配置加算1	・認知症ケア加算3
・看護補助加算2	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・療養環境加算	・精神疾患診療体制加算
・重症者等療養環境特別加算	・精神科急性期医師配置加算2のイ
・無菌治療室管理加算1	・排尿自立支援加算
・無菌治療室管理加算2	・地域医療体制確保加算
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・救命救急入院料3(小児加算、早期栄養介入管理加算)
・緩和ケア診療加算	・特定集中治療室管理料1 (算定上限日数に関する基準、小児加算、早期離床・ リハビリテーション加算、早期栄養介入管理加算)
・精神科応急入院施設管理加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1(早期栄養介入管理加算)
・精神科身体合併症管理加算	・新生児特定集中治療室管理料2
・精神科リエゾンチーム加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・摂食障害入院医療管理加算	・小児入院医療管理料2(プレイルーム加算、無菌治療管理加算1 無 菌治療管理加算2)
・栄養サポートチーム加算	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・医療安全対策加算1	・歯科外来診療医療安全対策加算2
・感染対策向上加算1(指導強化加算、抗菌薬適正使用体 制加算)	・歯科外来診療感染対策加算3
・患者サポート体制充実加算	・歯科診療特別対応連携加算
・重症患者初期支援充実加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・入院時食事療養(I)

・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工中耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・外来栄養食事指導料の注2に規定する施設基準	・耳管用補綴材挿入術
・外来栄養食事指導料の注3に規定する施設基準	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る)
・糖尿病合併症管理料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・がん性疼痛緩和指導管理料 (難治性がん性疼痛緩和指導管理加算)	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。) (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・がん患者指導管理料 イ	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・がん患者指導管理料 ロ	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・がん患者指導管理料 ハ	・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
・がん患者指導管理料 ニ	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・外来緩和ケア管理料	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・乳がんセンチネルリンパ節加算1(乳腺悪性腫瘍手術の加算)及びセンチネルリンパ節生検(片側・併用)
・糖尿病透析予防指導管理料	・乳がんセンチネルリンパ節加算2(乳腺悪性腫瘍手術の加算)及びセンチネルリンパ節生検(片側・単独)
・小児運動器疾患指導管理料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・婦人科特定疾患治療管理料	・胸腔鏡下弁形成術
・腎代替療法指導管理料	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
・一般不妊治療管理料	・胸腔鏡下弁置換術
・生殖補助医療管理料1	・経皮的僧帽弁クリップ術
・二次性骨折予防継続管理料1	・不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)に限る。)
・二次性骨折予防継続管理料3	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
・慢性腎臓病透析予防指導管理料	・経皮的中隔心筋焼灼術
・院内トリージ実施料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・外来放射線照射診療料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)

・外来腫瘍化学療法診療料1 (連携充実加算、がん薬物療法体制充実加算)	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・ニコチン依存症管理料	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極拔去術
・相談支援加算	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・がん治療連携計画策定料	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・外来排尿自立指導料	・補助人工心臓
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)
・プログラム医療機器等指導管理料(高血圧症治療補助アプリを用いる場合)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・薬剤管理指導料	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・医療機器安全管理料1	・骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・医療機器安全管理料2	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・精神科退院時共同指導料2	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うもの)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・腹腔鏡下肝切除術(1 部分切除 2 外側区域切除 3 垂区域切除 4 1区域切除(外側区域切除を除く) 5 2区域切除 6 3区域切除以上のもの)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・遺伝学的検査の注1に規定する施設基準	・生体部分肝移植術
・染色体検査の注2に規定する施設基準	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・骨髓微小残存病変量測定	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞・血液)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・がんゲノムプロファイリング検査	・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
・先天性代謝異常症検査	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・感染症免疫学的検査(抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・抗HLA(スクリーニング検査)及び抗HLA(抗体特異性同定検査)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を使用した場合)
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含むもの)	・同種死体腎移植術
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・生体腎移植術

・検体検査管理加算(Ⅳ)	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・国際標準検査管理加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・尿道狭窄グラフト再建術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・人工尿道括約筋植込・置換術
・時間内歩行試験、シャトルウォーキングテスト	・精巣温存手術
・ヘッドアップティルト試験	・精巣内精子採取術
・長期継続頭蓋内脳波検査	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・神経学的検査	・腹腔鏡下仙骨腔固定術
・補聴器適合検査	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・黄斑局所網膜電図	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・全視野精密網膜電図	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・小児食物アレルギー負荷検査	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内服・点滴誘発試験	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・経頸静脈的肝生検	・体外式膜型人工肺管理料
・画像診断管理加算4	・胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・ポジトロン断層撮影	・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)(医科点数表第2章第10部手術通則第19号)
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・輸血管管理料Ⅱ
・CT撮影及びMRI撮影	・貯血式自己血輸血管管理体制加算
・冠動脈CT撮影加算	・コーディネート体制充実加算
・心臓MRI撮影加算	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・乳房MRI撮影加算	・同種クリオプレシピテート作製術
・小児鎮静下MRI撮影加算	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・頭部MRI撮影加算	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・全身MRI撮影加算	・麻酔管理料(Ⅰ)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・麻酔管理料(Ⅱ)
・外来化学療法加算1	・周術期薬剤管理加算
・無菌製剤処理料	・放射線治療専任加算
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ) (初期加算・急性期リハビリテーション加算)	・外来放射線治療加算
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ) (初期加算・急性期リハビリテーション加算)	・高エネルギー放射線治療(一回線量増加加算(全乳房照射))

・運動器リハビリテーション料(Ⅰ) (初期加算・急性期リハビリテーション加算)	・強度変調放射線治療(IMRT)(一回線量増加加算(前立腺照射))
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) (初期加算・急性期リハビリテーション加算)	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・摂食嚥下機能回復体制加算2	・体外照射呼吸性移動対策加算
・がん患者リハビリテーション料	・定位放射線治療
・集団コミュニケーション療法料	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算(動体追尾法・その他)
・児童思春期精神科専門管理加算	・画像誘導密封小線源治療加算
・児童思春期支援指導加算	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診断
・医療保護入院等診療料	・病理診断管理加算2
・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・硬膜外自家血注入	・看護職員処遇改善評価料60
・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	・外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・導入期加算3及び腎代替療法実績加算	・入院ベースアップ評価料80
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・歯科治療時医療管理料
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・医療機器安全管理料(歯科)
・ストーマ合併症加算(ストーマ処置)	・咀嚼能力検査
・皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算(皮膚悪性腫瘍切除術)	・咬合圧検査
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)(二次再建)	・摂食嚥下機能回復体制加算2(摂食機能療法の加算)
・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・歯科口腔リハビリテーション料2
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・手術用顕微鏡加算(加圧根幹充填処置の加算)
・椎間板内酵素注入療法	・歯根端切除手術の注3(歯科用3次元エックス線断層撮影装置及び手術用顕微鏡を用いた場合)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・歯周組織再生誘導手術
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)及び下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・仙骨神経刺激装置植込術及び交換術(過活動膀胱)	・光学印象
・舌下神経電気刺激装置植込術	・CAD／CAM冠及びCAD／CAMインレー
・角結膜悪性腫瘍切除手術	・歯科矯正診断料
・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするもの)に限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・口腔病理診断管理加算2
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・網膜再建術	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・該当なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	(1) 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 (2) 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	・病理部症例検討会 60回 ・検査・輸血部症例検討会 73回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	10
	剖検率(%)	5.56%

)1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こ
(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
緊急時における有効期間を超えた血小板製剤の使用のための体制構築に係る研究	前田 士郎	先進ゲノム検査医学講座	4,876,000	補 委	厚生労働行政推進調査事業費
コミュニティーセンターを活用したMSMに対するHIV感染症の有効な普及啓発方法に関する研究	仲村 秀太	感染症・呼吸器・消化器内科学講座	1,000,000	補 委	厚生労働省科学研究費(研究分担者)
多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究	新垣 伸吾	第一内科	1,500,000	補 委	厚生労働行政推進調査事業費(研究分担者)
小児腎領域の希少・難治性疾患群の全国診療・研究体制の構築	中西 浩一	育成医学講座	350,000	補 委	厚生労働省科学研究費(研究分担者)
特発性大腿骨頭壊死症の確定診断と重症度判定の向上に資する大規模多施設研究	仲宗根 哲	整形外科科学講座	100,000	補 委	厚生労働省科学研究費(研究分担者)
難治性聴覚障害に関する調査研究	鈴木 幹男	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	300,000	補 委	厚生労働省科学研究費(研究分担者)
腎疾患対策検討会報告書に基づく対策の進捗管理および新たな対策の提言に資するエビデンス構築	古波蔵 健太郎	血液浄化療法部	300,000	補 委	厚生労働行政推進調査事業費(研究分担者)
がん対策推進基本計画の進捗管理に資する評価指標の実装に向けた研究	増田 昌人	がんセンター	300,000	補 委	厚生労働省科学研究費(研究分担者)
がん診療連携拠点病院等における情報提供の適切な方法・項目の確立に資する研究	増田 昌人	がんセンター	250,000	補 委	厚生労働省科学研究費(研究分担者)
HAMならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂	石原 聡	循環器・腎臓・神経内科学講座	200,000	補 委	厚生労働省科学研究費(研究分担者)
成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの強化のための研究	仲松 正司	感染対策室	450,000	補 委	厚生労働省科学研究費(研究分担者)
新規疾患の新生児マスキリーニングに求められる実施体制の構築に関する研究	知念 安紹	育成医学講座	100,000	補 委	こども家庭科学研究費(研究分担者)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者に対する外科治療の標準化に関する研究	高槻 光寿	第一外科	100,000	補 委	厚生労働行政推進調査事業費(研究分担者)
脳機能ネットワークの観点から行うPusher現象の病態解析と新規治療法の開発	西村 正彦	ブレインヘルスケア学講座	0	補 委	日本学術振興会 科研費補助金
女性骨盤底機能障害のレジストリ作成に基づいた予防・先端治療の確立	芦刈 明日香	腎泌尿器外科	0	補 委	日本学術振興会 科研費基金
酸化ストレス応答の分子機構の解明および新たながん治療応用への基礎的検討	藤川 由美子	先進医療創成科学	0	補 委	日本学術振興会 科研費基金
がん患者におけるミトコンドリア関連miRNAを介した心血管機能への影響の解明	徳重 明央	臨床薬理学	0	補 委	日本学術振興会 科研費基金
ヒト海馬神経新生能の非侵襲的測定	小林 繁貴	脳神経外科	0	補 委	日本学術振興会 科研費基金
銀ナノ錯体バイオチップを活用したスクレオソーム解析による新規大腸癌診断法の確立	金城 達也	第一外科	0	補 委	日本学術振興会 科研費基金
腎癌骨転移の骨関連有害事象(SRE)低減に向けた治療法の開発	平安名 常一	放射線	390,000	補 委	日本学術振興会 科研費基金
手術のためのバーチャルリアリティ変形性物理シミュレーション・システムの開発	宮城 智央	ブレインヘルスケア学講座	0	補 委	日本学術振興会 科研費基金
がんウイルスが形成するハイブリッド転写開始前複合体の全体構成解明と創薬シーズ探索	渡部 匡史	ウイルス学	0	補 委	日本学術振興会 科研費基金
脊髄供血環境の新たな評価法と脊髄虚血障害予防への応用	喜瀬 勇也	第二外科	260,000	補 委	日本学術振興会 科研費基金
肺高血圧症に対するCARS2遺伝子治療法の確立	筒井 正人	薬理学	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科研費基金
異種移植モデルを用いた乳房外パジェット病に対する新規治療法の開発	柳 輝希	皮膚科	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科研費基金
生体肝移植における腸内細菌移植併用とその免疫学的効果についての研究	高槻 光寿	第一外科	1,430,000	補 委	日本学術振興会 科研費基金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
エクソソームを用いた胸腹部大動脈術後対麻痺に対する新たな予防法の開発	清水 雄介	形成外科	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
沖縄型ALSの脊髄局所モデル動物作成と外科的治療法の探索;変異型TFG発現制御	神里 興太	麻酔科	780,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
リンパ浮腫治療のための脂肪間質細胞改変型“Designer Cells”の開発	市瀬 多恵子	附属動物実験施設	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
生きた細胞膜構造を断面観察する新しい顕微観察法の開発	角南 寛	先端医学研究センター	2,860,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
TRPV4の多面的作用に着目した多発性嚢胞腎病態に基づく疾患特異的治療の開発	中西 浩一	小児科	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
心不全判定AIモデルによる高リスク症例の同定と最適治療法の探求	楠瀬 賢也	第三内科	910,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
がん治療関連心毒性克服とがんサバイバーの心血管予後改善を目指した臨床研究	植田 真一郎	臨床薬理学	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
ゲノム解析による非結核性抗酸菌の高精度迅速同定および薬剤感受性判定システムの開発	金城 武士	第一内科	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
腸内細菌を標的とした脳マラリア予防・治療法の開発に向けた研究	谷口 委代	免疫学・寄生虫学	1,950,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
植物油由来機能成分を活用した肥満症に伴う認知機能低下機構の統合的解析と治療応用	益崎 裕章	第二内科	130,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
新規尿中がんバイオマーカーを用いた簡易型センサデバイスの開発と臨床的有用性検討	猪口 淳一	腎泌尿器外科	2,775,353	補委	日本学術振興会 科研費基金
ミクログリアを標的とした介入と運動療法を組み合わせた神経障害性疼痛治療への挑戦	小坂 祥範	分子解剖学	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
山中因子以外の新規転写因子を用いた、より安全性の高いヒト人工幹細胞の樹立	野口 洋文	再生学	3,640,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
双極性障害患者の睡眠・覚醒リズムに焦点を当てたプログラム医療機器の開発と効果検証	高江洲 義和	精神科	1,950,000	補委	日本学術振興会 科研費基金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
頭頸部癌の癌幹細胞を標的にした新規薬物治療の開発	近藤 俊輔	耳鼻科	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
Torinを中心としたmTOR阻害薬による頭頸部癌新規低侵襲治療の開発	鈴木 幹男	耳鼻科	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
HPV関連中咽頭癌におけるPARP活性の意義: 予後との関連と臨床応用について	金城 貴夫	保健学科 形態病理学	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
強膜への臨床的・ゲノム学的アプローチによる中心性漿液性脈絡網膜症の最適治療確立	古泉 英貴	眼科	1,950,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
脂質間質細胞のオルガネラ伝達を利用したリンパ管再生	市瀬 広武	附属動物実験施設	2,080,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
低出力体外衝撃波によるメカノバイオロジーの機序解明と加齢による排尿障害治療の確立	大城 琢磨	腎泌尿器外科	2,860,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
薬剤耐性遺伝子周辺の遺伝子構造を利用した、新たな薬剤耐性菌追跡法の提案	屋宜 宣慶	保健学科 生理機能検査学	2,340,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
フッ化ピリミジン系抗がん剤併用時における経口抗凝固薬の使い分けに関する研究	中村 克徳	薬剤部	910,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
CD4+CD28-T細胞を標的としたステロイド抵抗性慢性GVHDの治療開発	浜田 聡	小児科	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
グルコース輸送体標的化イムノキシンによる成人T細胞白血病の新規治療法開発	仲地 佐和子	第二内科	780,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
パーキンソン病患者への経頭蓋磁気刺激療法による治療法と画像解析方法の開発	山田 尚基	リハビリテーション部	564,304	補委	日本学術振興会 科研費基金
縦断的MRIによる混合性うつ病及び双極性障害の評価と合理的治療方針の確立	新里 輔鷹	精神科	780,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
脂肪由来幹細胞の三次元細胞構造体を用いたACL再建術の骨-移植腱結合部の研究	比嘉 浩太郎	整形外科	390,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
糖尿病による排尿障害の克服、低出力体外衝撃波による新規治療法の確立	木村 隆	腎泌尿器外科	780,000	補委	日本学術振興会 科研費基金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
認知・概日リズム障害に着目した双極性障害の機能的リハビリ改善プログラムの開発	城間 綾乃	精神科	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
不登校の神経発達症児の客観的概日リズム評価と個別化精密治療の開発	石橋 孝勇	精神科	520,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
高齢者頭頸部がんのフレイル、免疫関連分子と治療経過の解析	比嘉 輝之	耳鼻科	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
皮下臍島移植の成績を向上する3D臍島細胞シートの開発	大野 慎一郎	第一外科	1,820,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
多層化脂肪幹細胞シートを用いた肛門括約筋再生に関する研究	宮城 良浩	第一外科	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
IP関連副鼻腔癌のExon20insによる癌化メカニズムの解明と新規治療戦略	平川 仁	耳鼻科	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
メチオニン依存とヒストンメチル化に着目した骨肉腫悪性度の制御と新たな治療戦略	青木 佑介	整形外科	2,340,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
ヒト乳頭腫ウイルス関連頭頸部癌の低酸素状態の分子機構に着目した低侵襲治療開発	安慶名 信也	耳鼻科	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
重症二次性三尖弁逆流に対するスパイラル・サスペンション法の有効性に関する臨床研究	古川 浩二郎	第二外科	13,000	補委	日本学術振興会 科研費基金(研究分担者)
流行地で実施できる皮膚リーシュマニア症の高感度迅速診断法・感染リスク評価系の構築	内海 大介	皮膚科	260,000	補委	日本学術振興会 科研費基金(研究分担者)
唾液分泌制御を目的とした経皮的唾液腺局所作用型外用剤の開発	中村 博幸	歯科口腔外科	130,000	補委	日本学術振興会 科研費基金(研究分担者)
薬剤スクリーニングによる血管肉腫に対する新規治療法の探索と治療効果の検証	柳 輝希	皮膚科	390,000	補委	日本学術振興会 科研費基金(研究分担者)
分子基盤に基づいたHPV関連子宮頸部腺癌の治療選択基準の提唱ー子宮温存のために	川上 史	細胞病理学	715,000	補委	日本学術振興会 科研費基金(研究分担者)
iPS細胞由来中胚葉系細胞を用いて新たな靱帯再建法の確立を目指す研究	東 千夏	整形外科	65,000	補委	日本学術振興会 科研費基金(研究分担者)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
機能性ナノ分子によるマクロファージ機能変換と慢性腎臓病の治療	猪口 淳一	腎泌尿器外科	390,000	補 委	日本学術振興会 科研費基金(研究分担者)
閉経後高齢女性が発症リスクの拡張性心不全に対する分子機序解明及び治療法開発	徳重 明央	臨床薬理学	65,000	補 委	日本学術振興会 科研費基金(研究分担者)
心房細動における脳心血管病予防のための降圧目標を解明する国際共同大規模臨床試験	大屋 祐輔	病院長	130,000	補 委	日本学術振興会 科研費基金(研究分担者)
肥満症の減量治療抵抗性に関連する遺伝素因の同定とPRS構築による精密医療の確立	前田 士郎	先進ゲノム検査医学講座	130,000	補 委	日本学術振興会 科研費基金(研究分担者)
腸オルガノイド細胞による立体構造体を用いた炎症腸疾患に対する新たな治療法の確立	清水 雄介	形成外科	65,000	補 委	日本学術振興会 科研費基金(研究分担者)
マルチオミックス連関による循環器疾患における次世代型精密医療の実現	植田 真一郎	臨床薬理学講座	2,600,000	補 委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター(研究分担者)
モジュール検討、臨床系学会の調査、看護系学会の調査	植田 真一郎	臨床薬理学講座	1,470,991	補 委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター(研究分担者)
精密質量分析による核酸の分析	鈴木 健夫	医化学講座	6,500,000	補 委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター(研究分担者)
革新的技術を活用したマラリア及び顧みられない寄生虫症の制圧と排除に関する研究開発	野中 大輔	母子看護学講座	2,164,500	補 委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター(研究分担者)
エムボックスの治療・予防体制の整備に関する研究開発	仲村 秀太	感染症・呼吸器・消化器内科学	2,774,541	補 委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター
日本全域で心不全診療連携を最適化するAI実装DoDシステムの開発と実用化	楠瀬 賢也	循環器・腎臓・神経内科学講座	7,410,000	補 委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター(研究分担者)
ゲノム情報を基盤としたHTLV-1感染症の病態形成機序の解明及び発症リスク予知アルゴリズム開発に関する総合的研究	福島 卓也	病態検査学講座	2,600,000	補 委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター(研究分担者)
機能性オルガノイドを用いた運動ニューロン疾患遺伝子治療薬スクリーニング系の確立	垣花 学	麻酔科学講座	2,600,000	補 委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター
SOD1変異ALSに対する遺伝子編集治療法の開発	垣花 学	麻酔科学講座	2,600,000	補 委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
HPVワクチンの長期的効果およびキャッチアップ接種の有効性の評価のための大規模疫学研究	関根 正幸	女性・生殖医学講座	3,806,400	補 委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター
小児ステロイド感受性ネフローゼ症候群早期再発例の長期寛解導入を目指したリツキシマブ療法開発研究	中西 浩一	育成医学講座	1,300,000	補 委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター
心血管ハイリスクの女性における性特異的心不全発症予防戦略の開発: 周産期および出産情報を含む後ろ向きコホート解析と RCT サブ解析によるエビデンス創出	植田 真一郎	臨床薬理学	10,400,000	補 委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター (研究分担者)
近位筋優位遺伝性運動感覚ニューロパチーに対する遺伝子治療開発に向けた非臨床試験	垣花 学	麻酔科学講座	1,950,000	補 委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター (研究分担者)
開発途上国における新たな非電動式陰圧創傷治療システムの開発	清水 雄介	形成外科	1,302,600	補 委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター (研究分担者)
マイレジストリの縦断データを活用した新規治療法開発と薬事承認の実現	高江洲 義和	精神病態医学講座	2,600,000	補 委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター (研究分担者)
全九州における黄斑下出血に対する組織プラスミノゲン活性化因子(tPA)眼局所治療に関する研究開発	植田 真一郎	臨床研究教育管理センター	1,560,000	補 委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター (研究分担者)
地域統括相談支援センター事業	増田 昌人	がんセンター	8,800,000	補 委	沖縄県
沖縄県がん患者等支援事業	増田 昌人	がんセンター	7,163,719	補 委	沖縄県
沖縄県地域医療支援センター運営事業費	大屋 祐輔	病院長	41,982,354	補 委	沖縄県
沖縄県肝疾患診療連携拠点病院事業	前城 達次	感染症・呼吸器・消化器内科学講座	9,340,000	補 委	沖縄県
沖縄県認知症疾患医療センター事業	近藤 毅	精神病態医学講座	10,074,000	補 委	沖縄県
沖縄県感染症診療ネットワークコーディネーター配置委託	仲村 秀太	感染症・呼吸器・消化器内科学講座	6,300,000	補 委	沖縄県
沖縄県難病医療提供体制整備事業	大屋 祐輔	病院長	5,214,000	補 委	沖縄県

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
沖縄県新生児聴覚検査体制整備事業	大屋 祐輔	病院長	5,294,328	補 委	沖縄県
沖縄県アレルギー等特別対策事業	鈴木 幹男	耳鼻咽喉科	3,812,000	補 委	沖縄県
沖縄県聴覚障害児支援中核機能モデル事業	鈴木 幹男	耳鼻咽喉科	7,113,029	補 委	沖縄県
令和6年度自殺未遂者再企図防止事業	大屋 祐輔	病院長	1,293,254	補 委	沖縄県
次世代のがんプロフェッショナル養成プラン	福島 卓也	病態検査学講座	3,880,000	補 委	厚生労働省
研究拠点形成費等補助金(ポストコロナ事業)	筒井 正人	医学部長	46,388,426	補 委	文部科学省
バイオ関連産業事業化促進事業	清水 雄介	形成外科学講座	4,165,560	補 委	沖縄県
沖縄県死亡画像診断システム等設備整備事業	二宮 賢司	法医学講座	3,597,000	補 委	沖縄県
地域医療関連講座設置事業	大屋 祐輔	病院長	9,809,000	補 委	沖縄県
指導医育成プロジェクト事業	武村 克哉	地域医療部	4,475,000	補 委	沖縄県
がん診療連携拠点病院機能強化事業	増田 昌人	がんセンター	62,337,217	補 委	沖縄県
感染症指定医療機関運営費補助金	大屋 祐輔	病院長	5,600,000	補 委	沖縄県
沖縄県新人看護職員研修事業	大屋 祐輔	病院長	1,570,000	補 委	沖縄県
認定看護師・特定行為研修支援事業	大屋 祐輔	病院長	11,434,000	補 委	沖縄県

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
沖縄県地域医療介護総合確保基金事業	大屋 祐輔	病院長	121,420,000	補 委	沖縄県
ヘリコプター等添乗医師等派遣協力病院支援事業	大屋 祐輔	病院長	1,040,000	補 委	沖縄県
地域災害拠点病院設備整備事業	大屋 祐輔	病院長	1,072,000	補 委	沖縄県
医師臨床研修費等補助金(医師)	梅村 武寛	救急部	13,168,000	補 委	沖縄県
沖縄県外科系医師育成事業	大屋 祐輔	病院長	1,750,000	補 委	沖縄県
造血幹細胞移植医療体制整備事業	森島 聡子	第二内科	29,364,000	補 委	厚生労働省
医師定着のための臨床研究プロフェッショナル育成事業	植田 真一郎	臨床薬理学講座	3,780,000	補 委	沖縄県
沖縄県地域医療介護総合確保基金事業補助金	大屋 祐輔	病院長	4,177,000	補 委	沖縄県
沖縄県医療施設等物価高騰対策補助金	大屋 祐輔	病院長	3,600,000	補 委	沖縄県
質の高い臨床教育・研究の確保事業	植田 真一郎	臨床薬理学講座	30,000,000	補 委	文部科学省
地域医療勤務環境改善体制整備特別事業	大屋 祐輔	病院長	12,374,000	補 委	沖縄県
伴走型支援を軸とした研究支援部門の改変による心不全臨床研究の推進と研究人材養成と専任実習指導医配置と治療シミュレーション導入～	植田 真一郎	臨床研究教育管理センター	40,000,000	補 委	文部科学省
沖縄県新興感染症対応力強化・設備整備費補助金(施設)	大屋 祐輔	病院長	16,926,000	補 委	沖縄県
沖縄県新興感染症対応力強化施設・設備整備費補助金(設備)	大屋 祐輔	病院長	3,761,000	補 委	沖縄県

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
高度医療人材養成事業	大屋 祐輔	病院長	148,000,000	補 委	文部科学省
遠隔医療連携構築支援事業	大屋 祐輔	病院長	3,173,000	補 委	文部科学省

計 126

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Akiyama Y, Morioka S, Tsuzuki S, et al.	第一内科	Efficacy and viral dynamics of tecovirimat in patients with MPOX: A multicenter open-label, double-arm trial in Japan.	Journal of Infection and Chemotherapy. 2024 Jun;30(6):488-493.	Original Article
2	Ideguchi S, Yamamoto K.	第一内科	Letter from Japan.	Respirology. 2024 Jul;29(7):637-639.	Others
3	Nishiyama N, Uechi K, Arakaki W, et al.	第一内科	Complete genome sequence of a metallo- β - lactamase-producing Aeromonas dhakensis strain, RYU-Ah62, isolated from a patient with an abdominal abscess.	Microbiol Resour Announc. 2024 Jul 18;13(7):e0001024.	Original Article
4	Nakamura H, Yamamoto K.	第一内科	Mpox in people with HIV: A narrative review.	HIV Medicine. 2024 Aug;25(8):910-918.	Review
5	Kami W, Baba M, Chinen T, et al.	第一内科	A case of refractory disseminated subcutaneous abscess with intra-household transmission by a USA300-LV-like strain of PVL-positive community- acquired MRSA clone.	Journal of Infection and Chemotherapy. 2024 Nov;30(11):1162-1165.	Case report
6	Kami W, Baba M, Chinen T, et al.	第一内科	Lung Hepatization to Lung Abscess with Pneumococcal Pneumonia.	Internal Medicine. 2024 Oct 15;63(20):2869-2870.	Case report

7	Ideguchi S, Miyagi K, Kami W, et al.	第一内科	Clinical features of and severity risk factors for COVID-19 in adults during the predominance of SARS-CoV-2 XBB variants in Okinawa, Japan.	PLoS One. 2024 Oct 31;19(10):e0309808.	Original Article
8	Kami W, Kinjo T, Hashioka H,	第一内科	Detection of community-acquired respiratory viruses during COVID-19 pandemic in subtropical region in Japan.	European Journal of Clinical Microbiology & Infectious Diseases. 2024 Dec;43(12):2269-2276.	Original Article
9	Nabeya D, Kinjo T, Nakayama Y, et al.	第一内科	Bronchopneumonia Radiating Across All Pulmonary Lobes From the Hilum Caused by Human Metapneumovirus.	Respirology Case Reports. 2025 Feb 6;13(2):e70106.	Case report
10	Nabeya D, Kinjo T, Arakaki W, et al.	第一内科	Exploring the role of respiratory virus infections in aspiration pneumonia: a comprehensive analysis of cases with lower respiratory tract infections.	BMC Pulmonary Medicine. 2025 Feb 14;25(1):78.	Original Article
11	Zukeyama H, Kami W, Nakayama Y, et al.	第一内科	A Case of Tracheobronchial Fistula with Conservative Antimicrobial Therapy Selected by Careful Bronchoscopy	Respir Endosc 2025;3(1):54-55. doi.org/10.58585/respand.2024-0029.	Case report
12	Iwaki M, Fujii H, Hayashi H, et al.	光学医療診療部	Prognosis of biopsy-confirmed metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease: A sub-analysis of the CLIONE study.	Clinical and Molecular Hepatology. 2024 Apr;30(2):225-234.	Original Article
13	Tsutsumi T, Kawaguchi T, Fujii H, et al.	光学医療診療部	Hepatic inflammation and fibrosis are profiles related to mid-term mortality in biopsy-proven MASLD: A multicenter study in Japan.	Alimentary Pharmacology & Therapeutics. 2024 Jun;59(12):1559-1570.	Original Article
14	Suzuki S, Tominaga N, Aoki T, et al.	光学医療診療部	Association of blood group O with a recurrent risk for acute lower gastrointestinal bleeding from a multicenter cohort study.	Scientific Reports. 2024 Jun 17;14(1):13983.	Original Article

15	Nouso K, Kawanaka M, Fujii H, et al.	光学医療診療部	Validation study of age-independent fibrosis score (Fibrosis-3 index) in patients with metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease.	Hepatology Research. 2024 Oct;54(10):912-920.	Original Article
16	Kamada Y, Fujii H, Suzuki Y, et al.	光学医療診療部	Clinical Characteristics of Steatotic Liver Disease Categories in a Large Cohort of Japanese Health Checkup Participants.	Gastro Hep Advances. 2024 Aug 10;3(8):1148-1156.	Original Article
17	Fukuda K, Mizukami K, Yamaguchi D, et al.	光学医療診療部	Analysis of clinicopathological factors associate with the visibility of early gastric cancer in endoscopic examination and usefulness of linked color imaging: A multicenter prospective study.	PLoS One. 2024 Nov 5;19(11):e0312385.	Original Article
18	Shinzato Y, Nakayama Y, Okamoto S, et al.	第二内科	Impact of treatment cessation on incidence and progression of retinopathy in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: a retrospective cohort study	Diabetology International 2024 May 5; 15(3):535-543.	Original Article
19	Ishiki Y, Tamaki A, Honma K, et al.	第二内科	Post-traumatic pituitary stalk transection syndrome (PSTS) expeditiously manifested after a fall from a height combined with acute traumatic spinal cord injury: a rare case report with review of literature	Endocrine Journal 2024 Aug 8;71(8):817-824.	Case report
20	Honma K, Nakayama Y, Tamaki A, et al.	第二内科	Impact of the transition from radioimmunoassay (RIA) to chemiluminescent enzyme immunoassay (CLEIA) for the measurement of plasma aldosterone concentration (PAC) on the diagnosis of primary aldosteronism (PA) via retrospective analyses in Okinawa, Japan	Endocrine Journal 2024 Sep 2;71(9):895-906.	Original Article
21	Uema T, Tsukita M, Okamoto S, et al.	第二内科	Gut Microbiota-Based Prediction for the Transition from Normal Glucose Tolerance (NGT) to Impaired Glucose Tolerance (IGT) in a Remote Island Cohort Study	Diabetes Research and Clinical Practice 2024 Jul;213:111747.	Original Article

22	Tamaki A, Kuroda M, Yonaha K, et al.	第二内科	A rare case of autoimmune-mediated lecithin:cholesterol acyltransferase insufficiency manifesting as the acute onset of extremely hypo-high-density lipoprotein-cholesterolemia and spontaneous improvement: A case report with a review of the literature	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 2024 Dec 10. Online ahead of print.	Original Article
23	Kitamura S, Morichika K, Nakachi S, et al.	第二内科	Two cases of plasmablastic myeloma mimicking plasmablastic lymphoma with in-depth review of literature	Cancer Reports 2025 Feb;8(2):e70094.	Case report
24	Sakima A, Akagi Y, Akasaki Y, et al	第三内科	Effectiveness of digital health interventions for telemedicine/telehealth for managing blood pressure in adults: a systematic review and meta-analysis.	Hypertension Research. 2024 Jul 9. doi: 10.1038/s41440-024-01792-7. Online ahead of print.	Original Article
25	Kusunose K	第三内科	New era in right ventricular imaging with AI: Challenges and horizons.	Int J Cardiol. 2024 Jul 1;406:132002. doi: 10.1016/j.ijcard.2024.132002. Epub 2024 Apr 3.	Letter
26	Sakima A, Matayoshi T, Arima H	第三内科	Strategies for improving the treatment and control of hypertension in Japan.	J Hum Hypertens. 2024 Jun;38(6):510-515. doi: 10.1038/s41371-022-00708-7.	Review
27	Kusunose K	第三内科	Shaping the future of cardiovascular medicine: advancing morphological atlases.	Heart. 2025 Feb 6;heartjnl-2024-325612. doi: 10.1136/heartjnl-2024-325612. Online ahead of print.	Letter
28	Oshiro N, Kinjo T, Aharen D, et al	血液浄化療法部	Efficacy and safety of early administration of remdesivir in hemodialysis patients with COVID-19: A case report and literature review	Medicine (Baltimore). 2024 Nov 29;103(48):e40650. doi: 10.1097/MD.00000000000040650.	Review

29	Kusunose K	第三内科	Transforming Echocardiography: The Role of Artificial Intelligence in Enhancing Diagnostic Accuracy and Accessibility	Intern Med. 2025 Feb 1;64(3):331–336. doi: 10.2169/internalmedicine.4171–24. Epub 2024 Jul 25.	Review
30	Toma Y, Ikemiyagi H, Shiohira S, et al	第三内科	Association of changes in brachial–ankle pulse wave velocity after transcatheter aortic valve replacement with mortality in Japanese patients with severe aortic stenosis: A single center, retrospective cohort study	Heart Vessels. 2025 Feb;40(2):161–170. doi: 10.1007/s00380–024–02437–y. Epub 2024 Jul 15.	Original Article
31	Kinjo Y, Saji N, Murotani K, et al	第三内科	Enlarged Perivascular Spaces Are Independently Associated with High Pulse Wave Velocity: A Cross-Sectional Study	J Alzheimers Dis . 2024;Sep;101(2):627–636.	Original Article
32	Mizuta E, Kitada K, Sakima A, et al	第三内科	Effect of population-based sodium reduction interventions on blood pressure: a systematic review and meta-analysis of randomized trials	Hypertens Res . 2025 Mar 7. doi: 10.1038/s41440–025–02181–4. Online ahead of print.	Original Article
33	Fujiwara T, Iwashima Y, Narita K, Sakima A, et al	第三内科	Combination of medical therapy and percutaneous transluminal renal angioplasty versus medical therapy alone for patients with atherosclerotic renal artery stenosis: systematic review and meta-analysis	Hypertens Res . 2025 Mar 4. doi: 10.1038/s41440–025–02166–3. Online ahead of print.	Original Article
34	Akasaki Y, Suematsu Y, Sakima A, et al	第三内科	Impact of patient care teams on blood pressure control in patients with hypertension: a systematic review and meta-analysis	Hypertens Res . 2025 Feb 17. doi: 10.1038/s41440–025–02152–9. Online ahead of print.	Original Article
35	Haze T, Katsurada K, Sakima A, et al	第三内科	Effect of intensive versus standard blood pressure control on cardiovascular outcomes in adult patients with hypertension: a systematic review and meta-analysis	ypertens Res . 2025 Feb 13. doi: 10.1038/s41440–025–02131–0. Online ahead of print.	Original Article

36	Hisamatsu T, Ueda K, Sakima A, et al	第三内科	Effectiveness of self- monitoring devices measuring the urinary sodium-to-potassium ratio, urinary salt (sodium) excretion, or salt concentration in foods for blood pressure management: a systematic review and meta-analysis	Hypertens Res . 2025 Feb 13. doi: 10.1038/s41440-025-02124-z. Online ahead of print.	Original Article
37	Maruhashi T, Tatsumi Y, Sakima A, et al	第三内科	Updated meta-analysis for antihypertensive treatment guided by home blood pressure compared to treatment based on office blood pressure: systematic review	Hypertens Res . 2024 Dec 24. doi: 10.1038/s41440-024-02072-0. Online ahead of print.	Original Article
38	Satoh M, Tatsumi Y, Sakima A, et al	第三内科	Self-measurement of blood pressure at home using a cuff device for change in blood pressure levels: systematic review and meta-analysis	Hypertens Res . 2025 Feb;48(2):574-591. doi: 10.1038/s41440-024-01981-4.	Original Article
39	Kudaka S, Sakima A, Nakamura K.	第三内科	Healthcare administrators and hypertension at small- to-medium worksites in Okinawa, Japan	Hypertens Res . 2025 Jan;48(1):168-179. doi: 10.1038/s41440-024-01979-y. Epub 2024 Nov 8.	Original Article
40	Hisamatsu T, Kogure M, Sakima A, et al	第三内科	Practical use and target value of urine sodium-to- potassium ratio in assessment of hypertension risk for Japanese: Consensus Statement by the Japanese Society of Hypertension Working Group on Urine Sodium-to-Potassium Ratio	Hypertens Res . 2024 Dec;47(12):3288-3302. doi: 10.1038/s41440-024- 01861-x. Epub 2024 Oct 8.	Review
41	Abe M, Hirata T, Sakima A, et al	第三内科	Smartphone application- based intervention to lower blood pressure: a systematic review and meta-analysis	Hypertens Res . 2025 Feb;48(2):492-505. doi: 10.1038/s41440-024-01939-6.	Original Article
42	Sakima A	第三内科	Time in therapeutic range for out-of-office blood pressure in hypertensive disorders of pregnancy: A better risk assessment measurement	Hypertens Res . 2024 Dec;47(12):3483-3485. doi: 10.1038/s41440-024- 01919-w.	Others

43	Hayashi Y, Gohda Y, Kataoka A, et al.	第一外科	Single-incision laparoscopic surgery for benign multicystic mesothelioma of the peritoneum in a young man: A case report	Asian Journal of Endoscopic Surgery. 2024 Jul;17(3):e13319.	Case report
44	Tomonori Furugen, Takao Teruya, Shoko Nakasone, et al.	第二外科	Complete resection of a recurrent bronchogenic cyst tightly adhered to the left atrium using cardiopulmonary bypass: a case report.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery Cases 3, 6, 2024.	Case report
45	Kuninaka T, Kisyaba K, Kobayashi S, et al.	脳神経外科	Metabolic profiling of atypical meningioma and recurrent meningioma: a comparative analysis with proton magnetic resonance spectroscopy.	J Neurosurg 2024 Aug 16;142(1):214–223.	Original Article
46	Yabiku H, Matsui T, Sugimoto T, et al.	整形外科	Arthroscopic debridement and microfracture for bilateral osteochondral lesions on the lateral process of the talus involving the subtalar joint: A case report.	Medicine (Baltimore). 2024 May 24;103(21):e38302.	Case report
47	Aoki Y, Kubota Y, Masaki N, et al.	整形外科	Reduced Malignancy of Super Methotrexate- resistant Osteosarcoma Cells With Dihydrofolate Reductase Amplification Despite Paradoxical Gain of Oncogenic PI3K/AKT/mTOR and c- MYC expression.	Anticancer Research. 2024 Jul;44(7):2787–2792.	Original Article
48	Mizuta K, Kang BM, Han Q, et al.	整形外科	Expression of PD-L1 Is Increased by Methionine Restriction Using Recombinant Methioninase in Human Colorectal Cancer Cells.	Cancer Genomics & Proteomics. 2024 Jul- Aug;21(4):395–398.	Original Article
49	Mizuta K, Mori R, Han Q, et al.	整形外科	The Combination of Methionine Restriction and Docetaxel Synergistically Arrests Androgen- independent Prostate Cancer But Not Normal Cells.	Cancer Diagnosis & Prognosis. 2024 Jul 3;4(4):402–407.	Original Article
50	Yabiku H, Nagamoto H, Tome Y, et al.	整形外科	Arthroscopic Resection of Symptomatic Ossicles of the Medial Malleolus Combined With Deltoid Ligament Repairs in Athletes: A Report of Three Cases.	Cureus. 2024 Jul 14;16(7):e64521.	Case report

51	Aoki Y, Kubota Y, Masaki N, et al.	整形外科	Loss of Malignancy of Super-Methotrexate-resistant Osteosarcoma Cells Is Associated With an Increase of Methylated Histone Marks H3K9me3 and H3K27me3.	Anticancer Research. 2024 Oct;44(10):4213-4218.	Original Article
52	Igei T, Nakasone S, Ishihara M, et al.	整形外科	Surgical simulation of curved periacetabular osteotomy in four types of developmental dysplasia of the hip using finite element analysis and identification of the optimal rotation angle of the osteotomized bone.	Journal of Orthopaedic Science. 2024 Nov 12:S0949-2658(24)00201-X.	Original Article
53	Oshiro H, Mizuta K, Miyashi Y, et al.	整形外科	Relationship Between ¹⁸ F-FDG-PET/CT-derived Tumor Glucose Metabolic Activity, Nutritional Risk, and Survival in Patients With Soft-tissue Sarcoma.	Anticancer Research. 2025 Jan;45(1):351-357.	Original Article
54	Aoki Y, Kubota Y, Masaki N, et al.	整形外科	Targeting Methionine Addiction of Osteosarcoma with Methionine Restriction to Overcome Drug Resistance: A New Paradigm for a Recalcitrant Disease.	Cancers (Basel). 2025 Feb 3;17(3):506.	Review
55	Aoki Y, Han Q, Kubota Y, et al.	整形外科	Super Methotrexate-resistant Osteosarcoma Cells Retain Their Sensitivity to Recombinant Methioninase: Targeting Methionine Addiction to Overcome Extreme Cancer-Chemotherapy Resistance.	Anticancer Research. 2025 Mar;45(3):929-934.	Original Article
56	Shimabukuro W, Nakada S, Shimada K, et al.	小児科	Relationship between the serum creatinine concentrations of preterm neonates within 24 h of birth and their mothers before delivery.	Clin Exp Nephrol. 2024 Apr	Original Article
57	Yonesu H, Hamada S, Sakiyama H, et al.	小児科	Association of the nutritional risk index recorded prior to allogeneic hematopoietic cell transplantation with the clinical prognosis in children.	EJHaem. 2024 Dec 18;6(1):e1054.	Original Article

58	Shimoji S, Awazawa T, Yanagi T, et al	皮膚科	Acute compartment syndrome caused by box jellyfish (habu-kurage) stings: Report of a 7-year-old patient.	J Dermatol. 2024 Nov;51(11):e406-e407.	Case report
59	Komiyama S, Yamaguchi S, Horikawa T, et al	皮膚科	Fatal pseudomonas sepsis associated with crusted scabies in an immunosuppressed patient: Report of a case.	J Dermatol. 2024 Dec 26.	Case report
60	Hsu CY, Yanagi T, Maeda T, et al	皮膚科	Establishment of a trastuzumab-resistant extramammary Paget disease model: loss of PTEN as a potential mechanism.	Br J Cancer. 2024 Sep;131(5):944-953	Original Article
61	Nohara S, Nakanishi S, Matsuo T, et al.	腎泌尿器外科	A case report of hereditary leiomyomatosis and renal cell carcinoma (HLRCC).	Urology Case Report. 2024 Apr 10;54	Case report
62	Nakanishi S, Goya M, Suda T, et al.	腎泌尿器外科	Increased level of serum leucine-rich-alpha-2-glycoprotein 1 in patients with clear cell renal cell carcinoma.	BMC Urology. 2024 Apr 24;24(1):94.	Original Article
63	Nakanishi S, Suda T, Tanaka K, et al.	腎泌尿器外科	MUC1 expression is associated with ST3GAL2 and negatively correlated with the androgen receptor in castration-resistant prostate cancer.	Glycoconjugate Journal. 2024 Dec;41(6):381-394.	Original Article
64	Ashikari A, Kadekawa K, Tokushige A, et al.	腎泌尿器外科	Family history and acquired risk factors for pelvic organ prolapse: a case-control study in Japan.	Scientific Report. 2025 Feb 17;15(1):5717.	Original Article
65	Toyama M, Kouzaki H, Shimizu T, et al.	耳鼻咽喉科	Butyrate inhibits type 2 inflammation in eosinophilic chronic rhinosinusitis	Biochemical and Biophysical Research Communications. 2024 Jun 25;714:149967.	Original Article

66	Hirakawa H, Ikegami T, Toyama M, et al.	耳鼻咽喉科	Prospective Analysis of Squamous Cell Carcinoma Antigen-1 and -2 for Diagnosing Sinonasal Inverted Papilloma	Journal of Clinical Medicine. 2024 May 6;13(9):2721.	Original Article
67	Tamaki T, Teruya K, Hirakawa H, et al.	病理診断科	A Case of SMARCB1-Deficient Sinonasal Carcinoma With Clear Cell Morphology	The Cureus Journal of Medical Science. 2024 May 5;16(5):e59684.	Case report
68	Hirayama T, Shimizu Y, Kinjo H, et al.	耳鼻咽喉科	Analysis of reconstructed oropharynx shape after total glossectomy reconstruction using a free rectus abdominis musculocutaneous flap	JPRAS Open is an international. 2024 May 3;41:52-60.	Original Article
69	Kise N, Hirakawa H, Aniya S, et al.	耳鼻咽喉科	Utility of Ultrahigh-Resolution Computed Tomography for Laryngeal Reconstructive Surgery	The Laryngoscope is a leading otolaryngology. 2024 Nov;134(11):4667-4673.	Original Article
70	Hirakawa H, Ikegami T, Kinjo H, et al.	耳鼻咽喉科	Feasibility of Near-infrared Photoimmunotherapy Combined With Immune Checkpoint Inhibitor Therapy in Unresectable Head and Neck Cancer	Anticancer Research. 2024 Sep;44(9):3907-3912.	Original Article
71	Ganaha A, Nojiri N, Nakamura T, et al.	耳鼻咽喉科	Diagnosis of Enlarged Vestibular Aqueduct Using Wideband Tympanometry	Journal of Clinical Medicine. 2024 Nov 3;13(21):6602.	Original Article
72	Imanaga N, Terao N, Wakugawa S, et al.	眼科	Scleral Thickness in Simple Versus Complex Central Serous Chorioretinopathy	American Journal of Ophthalmology,261,103-111,2024 May	Original Article
73	Sawaguchi S, Terao N, Imanaga N, et al.	眼科	One-year choroidal thickness changes after photodynamic therapy for central serous chorioretinopathy evaluated by widefield optical coherence tomography	Graefe's Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology,262,3805-3814,2024 Dec	Original Article

74	Oshiro A, Imanaga N, Terao N, et al.	眼科	CHANGES IN SCLERAL THICKNESS IN THE ACUTE PHASE OF VOGT- KOYANAGI- HARADA DISEASE	Retina,44(8),1344–1350,2024 Aug	Original Article
75	Imanaga N, Koizumi H	眼科	Reply to the Comment on Scleral Thickness in Simple Versus Complex Central Serous Chorioretinopathy	American Journal of Ophthalmology,271,509–510, 2025 Mar	Letter
76	Koizumi H, Gomi F, Tsujikawa A, et al.	眼科	Efficacy, durability, and safety of faricimab up to every 16 weeks in patients with neovascular age- related macular degeneration: 2-year results from the Japan subgroup of the phase III TENAYA trial	Graefe's Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology,262(8),2439– 2448,2024 Aug	Original Article
77	Koizumi H, Imanaga N, Terao N	眼科	Central serous chorioretinopathy and the sclera: what we have learned so far	Japanese Journal of Ophthalmology.68(5),419– 428,2024 Sep	Review
78	Kinjo M, Nishie A, Kudaka R, et al	放射線科	A potential usefulness of ultra-high-resolution computed tomography in quality assurance of remote after-loading system for cervical cancer	Journal of Radiation Research, 2024 Sep 24;65(5):689–692	Original Article
79	Tsuchiya N, Inafuku H, Yogi S, et al	放射線科	Direct visualization of postoperative aortobronchial fistula on computed tomography	World J Radiol . 2024 Aug 28;16(8):337–347	Original Article
80	Iraha Y, Fujii S, Tsuchiya N, et al	放射線科	Diffusion lacunae: a novel MR imaging finding on diffusion-weighted imaging for diagnosing placenta accreta spectrum	Japanese Journal of Radiology, Published: 11 September 2024	Original Article
81	Ito J, Yamashiro T, Tomita H, et al	放射線科	Cervical CT Angiography: The Advantage of Ultra- High-Resolution CT Versus Conventional HRCT	Cancers (Basel) . 2024 Nov 19;16(22):3866	Original Article

82	Kayo A, Tschia N, Yonemoto K, et al	放射線科	Detection of Costal Cartilage Fractures on CT Images With Computer- aided Detection System for Rib Fractures	In Vivo January 2025, 39 (1) 390-395	Original Article
83	Oka I, Yogi A, Ishikawa K, et al	放射線科	Usefulness of arterial spin labeling MR angiography as preprocedural mapping for the intra-arterial chemotherapy in patients with maxillary sinus cancer: A case report	Radiology Case Report. 2024 Nov 8;20(1):620-624	Case report
84	Shusuke Tokuchi, Toshihiro Kawano, Edward Hosea Ntege, et al.	歯科口腔外科	Adult-onset hypophosphatasia diagnosed after consecutive tooth loss during orthodontic treatment: a case report	Journal of Medical Case Reports 2024 Dec ;18(1): 626	Case report
85	Risako Suzuki, Kentaro Ide, Shusuke Tokuchi, et al.	歯科口腔外科	Selective Effects of Collagen-derived Peptides Pro-Hyp and Hyp-Gly on Proliferation and Differentiation of SSEA3- positive Human Dental Pulp Stem Cells	Regenerative Therapy 2025 Mar ;29: 162-170	Original Article
86	Tomoko Tamaki, Kyonosuke Teruya, Hitoshi Hirakawa, et al.	病理診断科	A Case of SMARCB1- Deficient Sinonasal Carcinoma With Clear Cell Morphology	Cureus. 2024 May 5;16(5):e59684. doi: 10.7759/cureus.59684.	Case report
87	Kohagura K	血液浄化療法部	Effect of Combined DASH Diet with Sodium Restriction on Renal Function.	Kidney 360. 2024 Apr 1;5(4):487-488.	Original Article
88	Oshiro N, Kinjo T, Aharen D, et al.	血液浄化療法部	Efficacy and safety of early admsitration of remdesivir in hemodialysis patients with COVID-19:A case report and literature review.	Medicine(Baltimore).2024 Nov 29;103(48):e40650.	Original Article

89	Kohagura k, Zamami R, Oshiro N, et al.	血液浄化療法部	Heterogeneous afferent arteriolopathy:a key concept for understanding blood pressre-dependent renal damage.	Hypertension Reseach.2024 Dec;47(12):3383-3396.	Original Article
90	Nakamura T, Yamauchi M, Sonda S, et al.	血液浄化療法部	Green Nails,Red Alert:An Unusual Exit site infection Presentation.	Peritoneal Dialysis International.2024 Sep;44(5):397-398.	Case report
91	Imamura M, Maeda S	検査・輸血部	Perspectives on genetic studies of type2 diabetes from the genome-wide association studies era to precision medicine.	Journal of Diabetes Investigation 2024 Apr;15.15(4):410-422.	Review
92	Tuyoshi Kondo.,Riki Higa., Mariko kuniba.	精神科神経科	Successful treatment with guanfacine in a long- COVID-19 case manifesting marked cognitive impariment	Neuropsychopharmacology reports.2024年6月27日	Case report
93	Kazuhiro Kurihara., Mune ga Koda., Yu Zamami.	精神科神経科	Profiles and the impacm of affective temperament s on alchol use disorder: a cross sectional study.	Alchol and alcoholism. 2024年5 月14日	Original Article
94	Kazuhiro Kurihara., Hiro yuki Enoki., Hotaka Shinzato.	精神科神経科	Cluster analysis of patients with alchol usse disorder featuring alexithymia, depression, and diverse drinking behavior.	Neuropsychopharmacology reports.2024年5月21日	Original Article

計94件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	古堅誠	第一内科	がん予防対策に禁煙重要	沖縄タイムス, 17, 2024. 6. 12	Others
2	池宮城七重, 山本和子	第一内科	市中肺炎②: 非定型肺炎-マイコプラズマ肺炎, クラミジア肺炎, レジオネラ肺炎	日本医師会雑誌 呼吸器疾患 ペディア 153巻, 特別号 (2), S125-S128, 2024. 10.	Others
3	山本和子	第一内科	成人を対象としたワクチン 接種の動向について	日本内科学会雑誌 113巻 2045-2048, 2024. 10.	Review
4	山本和子	第一内科	新型コロナワクチン定期 接種の意義	琉球新報 3, 2025. 1. 28.	Others
5	山入端一貴, 井手口周平, 仲村秀太, 他.	第一内科	直腸炎を呈した皮膚の有 無の異なるエムボックス の2症例	感染症学雑誌 99巻 177-182, 2025. 3	Case report
6	湯本一由, 土屋奈々絵, 狩俣弘幸, 他.	光学医療診療部	胃および腸間膜に同時多 発した脱分化型脂肪肉腫 の一例	日本放射線科専門医会・医会 学術雑誌 4巻 6-12, 2024. 1	Case report
7	盛島明丈, 宮里卓行, 山里雄飛, 他.	光学医療診療部	直腸癌に合併した特徴的 内視鏡所見を示した無症 候性糞線虫症の1例	日本大腸検査学会雑誌 40巻 105-110, 2024. 6	Case report
8	益崎 裕章	第二内科	超加工食品・ゼロカロ リー食品の代謝・健康へ の影響	Diabetes Journal (日本糖尿 病財団) 51:9-15, 2024	Review
9	益崎 裕章	第二内科	第51回 内科学の展望:生 活習慣病をめぐる Interdisciplinary Medicine:病態解明と治 療の進歩:まとめ	日本内科学会雑誌 (日本内科 学会) 113:402-403, 2024	Letter
10	益崎 裕章	第二内科	令和5年度 日本肥満学 会学会賞の受賞にあたっ て: 私の肥満症研究の歩 み ~脂肪組織科学・分子 栄養学・依存的行動嗜 癖の脳科学からのチャレ ンジと社会実装~	肥満研究 (日本肥満学会) 30:4-10, 2024	Review

11	益崎 裕章	第二内科	2型糖尿病の食事療法・運動療法の効果を左右する腸内細菌のパワー	べんちのーと（メディカル・ジャーナル社）134:12-13, 2024	Original Article
12	益崎 裕章	第二内科	玄米に特有の機能成分γ-オリザノールの脳機能改善効果	New Diet Therapy（日本臨床栄養協会誌）40:55-57, 2024	Review
13	益崎 裕章	第二内科	2人に1人が100歳の時代？/ 動物性脂肪は麻薬と同じか？	The Way Forward（内閣府所管公益財団法人札幌がんセミナー）25:16-18, 2024	Review
14	益崎 裕章、上間 次己、岡本土毅	第二内科	腸脳力を活かしたQOL向上アプローチ：運動欲求・身体活動パフォーマンスに影響する腸内細菌の新知見	アロスエルゴン（クリニコ出版）3:1350-1356, 2024	Original Article
15	上間 次己、岡本土毅、益崎裕章（責任著者）	第二内科	沖縄県の離島、久米島コホート研究における腸内フローラ・血清メタボローム解析による代謝的不健康肥満者（MU0）の分析とPrecision Nutrition	アロスエルゴン（クリニコ出版）3:1366-1372, 2024	Original Article
16	益崎 裕章、玉城 敦子、伊敷洋平、他	第二内科	肥満と肥満症	日本臨牀（日本臨牀社）特集4号：動脈・静脈の疾患2024:最新の診断・治療動向82:32-38, 2024	Original Article
17	益崎 裕章	第二内科	実験動物に教えられ支えられた私のささやかな肥満症・糖尿病研究	日本糖尿病・肥満動物学会ニュースレター（日本糖尿病・肥満動物学会）Vol.27, No.2, 1-2, 2024	Letter
18	益崎 裕章	第二内科	EDITORIAL:「第59回糖尿病学の進歩」の見どころ・聴きどころ	Diabetes In The News（メディカル・ジャーナル社）Vol. 505, 1-1, 2024	Letter
19	益崎 裕章	第二内科	デジタルヘルスが拓くスマート社会とプレジジョンヘルスの未来～沖縄県久米島デジタルヘルスプロジェクトからの学びと展望～	メディカルビューポイント（医事出版社）Vol.45, No.10, 1-2, 2024	Original Article
20	益崎 裕章、玉城 敦子、伊敷洋平、他	第二内科	肥満の診断に必要な11の健康障害	日本臨牀（日本臨牀社）特集：肥満症2024-診断・治療の最新動向-	Original Article
21	山城 真人、中島 知、伊礼 由佳、他	第二内科	成人T細胞白血病・リンパ腫くすぶり型と鑑別を要したNocardia asiaticaによる筋肉内膿瘍・多発性リンパ節炎	臨床血液 2025年2月	Case report
22	楠瀬 賢也	第三内科	腫瘍循環器学ー新しい学際領域の最新知見ーXII. 特 論 腫瘍循環器における AI の活用.	日本臨牀 82 巻 増刊号 2:575-580, 2024.	Review

23	當間裕一郎, 楠瀬賢也	第三内科	局所壁運動異常を半定量的・定量的に評価する - ストレインなどをどう使う?	心エコー 25(3): 288-295, 2024.	Review
24	楠瀬賢也	第三内科	1. 総論: 循環器領域(心エコー)の技術と臨床の最新動向.	インナービジョン 39(5): 3-5, 2024.	Review
25	崎間 敦	第三内科	【高齢者の健康長寿と血圧管理-診断・治療の最新動向-】生活習慣・生活環境 高血圧を有する高齢者の減塩指導と注意点.	日本臨床(0047-1852)82巻4号 Page532-538, 2024.	Review
26	崎間 敦, 大屋祐輔	第三内科	【高血圧 すぐに診療に生かしたい最新のトピックス】実地医家のための高血圧診療オーバービュー 高血圧治療ガイドライン 次回の改訂に向けて.	Medical Practice(0910-1551)41巻4号 Page534-539, 2024.	Review
27	崎間 敦	第三内科	65歳未満健康・死亡率改善プロジェクトが展開する血圧対策のポピュレーションアプローチ 郵便局血圧測定プロジェクト.	沖縄県医師会報(0917-1428)60巻5号 Page321-322, 2024.	Others
28	永田春乃	第三内科	U-40のための循環器診療スキルアップ: 総合力を鍛える! 4章外来5「さあ、心リハを度導入しよう」	心臓リハビリテーション Update Heart View 2024年11月増刊号.	
29	楠瀬賢也	第三内科	虚血性心疾患の現状と未来 循環器領域におけるAIの進歩	心臓(0586-4488)57巻2号 Page158-167	Review
30	崎間 洋邦	第三内科	令和2年度DPC(Diagnosis Procedure Combination)データ解析による沖縄県の脳卒中の特徴	沖縄医学会雑誌(0911-5897)62巻4号 Page17-23	
31	久田正昭、渋井勇一、武本淳吉、他	第一外科	腫瘍摘出術前にGnRH依存性思春期早発症への移行が確定診断された小児精巣Leydig細胞腫の1例 - 本邦報告24例からみた臨床的特徴 -	日本小児外科学会雑誌. 60(2): 172-180, 2024. 4.	Original Article
32	島袋鮎美、金城達也、宮城良浩、他	第一外科	肝膿瘍を合併した腸重積を伴う上行結腸癌の1例	日本臨床外科学会雑誌 85(1), 70-75, 2024. 1.	Case report
33	高槻光寿、新垣伸吾、砂川綾美	第一外科	肝移植医療における肝炎医療コーディネーターの現状と今後の期待	肝胆膵 88(2): 221-223, 2024.	Others
34	當山昌大、比嘉章太郎、安藤美月、他	第二外科	胸骨ワイヤーにより人工血管破裂をきたしたと考えられた1例	胸部外科 77, 213-216,	Case report

35	浜崎 禎	脳神経外科	大脳鎌髄膜腫の顕微鏡手術	外視鏡手術Professional p80-85(メディカ出版) 分担執筆, 2025年(印刷中)	Original Article
36	浜崎 禎	脳神経外科	テント髄膜腫の顕微鏡手術	外視鏡手術Professional p91-96(メディカ出版) 分担執筆, 2025年(印刷中)	Original Article
37	翁長正道, 仲宗根哲, 伊藝尚弘, 他	整形外科	ショートテーパーウェッジ型Ovation Tributeシステムを使用したTHAの治療経験.	日本人工関節学会誌(1345-7608)54巻 Page203-204	Original Article
38	金城英雄, 島袋孝尚, 宮平蒼丸, 他	整形外科	予定硬膜切開後の髄液漏の関連因子.	Journal of Spine Research(1884-7137)15巻12 Page1357-1361	Original Article
39	島袋晃一, 仲宗根哲, 翁長正道, 他	整形外科	大腿骨の線維性骨異形成を伴う変形性股関節症に対してセメントTHAを行った1例.	整形外科と災害外科 73 (4) 907-910, 2024	Case report
40	金城英雄, 島袋孝尚, 宮平蒼丸, 他	整形外科	頚椎可動域制限を伴う椎体前方骨性隆起による嚥下障害の頭蓋頚椎矢状面アライメント評価.	整形外科と災害外科 73 (4) 861-864, 2024	Original Article
41	照屋周, 仲宗根哲, 翁長正道, 他	整形外科	当院における大腿骨ステム周囲骨折の治療成績.	整形外科と災害外科 73 (4) 799-802, 2024	Original Article
42	喜屋武諒子, 大久保宏貴, 仲宗根素子, 他	整形外科	当院における舟状骨偽関節の手術成績.	整形外科と災害外科 73 (4) 681-684, 2024	Original Article
43	竹内寛人, 米田晋, 喜屋武諒子, 他	整形外科	トリアムシノロン皮下注射後に生じた示指伸筋腱脱臼に対しMichon & Vichard法による再建を施行した一例.	整形外科と災害外科 73 (3) 674-676, 2024	Case report
44	宮城左京, 仲宗根哲, 翁長正道, 他	整形外科	50年前のカップ関節形成術後の緩みに対してTHAを行った1例.	整形外科と災害外科 73巻3号 Page438-441, 2024	Case report
45	仲宗根哲, 翁長正道, 伊藝尚弘, 他	整形外科	脆弱性骨盤骨折に対する経皮的骨盤スクリュー固定術の効果 有限要素解析法を用いた検討.	Hip Joint 50(1) 536-541, 2024	Original Article
46	國吉さくら, 仲宗根哲, 伊藝尚弘, 他	整形外科	レーダーチャートを用いた人工股関節全置換術における寛骨臼全周性のカップ突出の評価.	Hip Joint 50 (1) 509-512, 2024	Original Article
47	翁長正道, 仲宗根哲, 伊藝尚弘, 他	整形外科	股関節疾患に対して関節外に行った選択的エコーガイド下注射の治療効果について.	Hip Joint 50 (1) 271-275, 2024	Original Article

48	鷺崎郁之, 仲宗根哲, 翁長正道, 他	整形外科	ペルテス様変形を伴う変形性股関節症に対するTHAの術後成績.	Hip Joint50(2) 811-814, 2024	Original Article
49	中西浩一	小児科	腎疾患の診断と治療最前線 Alport症候群	腎と透析, 97 : 227-232. 2024. 12. 15	Review
50	中西浩一	小児科	Ⅱ. IgA腎症の疫学・診断学 小児発症IgA腎症の疫学的・病態的特徴	日本臨牀, 第82巻・第12号 第1267号1854-1861. 2024. 12. 1	Review
51	島袋渡, 濱田陸	小児科	16章-8 小児CKDの腎代替療法 (日本腎臓学会編) CKD診療ガイド 2024.	東京医学社, 東京, pp 117-118, 2024	Review
52	知念安紹、中西浩一	小児科	沖縄県の新生児オプショナルスクリーニングについて	沖縄医学会雑誌, 2024. 62. 49-53.	Original Article
53	浜田聡、大城登喜子、知念安紹、他	小児科	沖縄県における Interleukin-1 receptor associated k (IRAK4) 欠損症の早期迅速診断スクリーニングの現況	沖縄県医学会雑誌. 2024. 62. 41-44.	Original Article
54	知念安紹、中西浩一	小児科	沖縄県の新生児マススクリーニングにて診断されたガラクトース血症Ⅳ型の3例	特殊ミルク情報59号 25-27. 2024	Original Article
55	島袋渡, 中西浩一	小児科	Alport症候群 (アルポート症候群) ー常染色体顕性型Alport症候群の最近の知見ー	日腎会誌 2024 ; 66 (3) : 399-405	Review
56	中西浩一	小児科	今できる早期発見・治療の恩恵を全ての赤ちゃんに」ー沖縄こども先進医療協議会の目指すものー	沖縄の小児保健 第51号, 沖縄県小児保健協会, 3-16. 2024.	Review
57	石川 桐子, 宮城 拓也, 高橋 健造	皮膚科	【皮膚筋炎のすべて】臨床例 骨髄移植後の抗MDA-5抗体陽性の皮膚筋炎 手指診察の重要性	皮膚病診療 2025. 02	Review
58	大嶺 卓也, 高橋 健造	皮膚科	【フレッシュャーズ特集: 皮膚科の救急と重症例から学ぶ】 (Part1) 皮膚科の救急を学ぶ 救急外来でみる動物による皮膚疾患	Visual Dermatology 2024. 03	Review
59	高橋 健造	皮膚科	【遺伝性皮膚疾患】ダリエ病とヘイリー・ヘイリー病	皮膚科 2024. 01	Review

60	與那嶺 智子, 呉屋 真人, 大 城 吉則.	腎泌尿器外科	結石性腎盂腎炎,敗血症 性ショックにより両下腿 壊死をきたした一症例. Symmetrical peripheral gangrene.	西日本泌尿器科87巻1号 Page33-37 (2024. 10)	Case report
61	猪口淳一, 松元 崇, 高山 梓, 他	腎泌尿器外科	ロボット支援手術時の脳 ガス塞栓の経験と炭酸ガ ス塞栓に対する対策.	Japanese Journal of Endourology and Robotics. 2024;37(2):290-295.	Review
62	真栄田 裕行	耳鼻咽喉科	食道・気道異物治療の最 前線 最近の気管食道異 物事情 歯科関連異物を 中心に	日本気管食道科学会会報 75 巻2号 Page188-190 (2024. 04)	Review
63	安慶名 信也, 金城 秀俊, 真 栄田 裕行, 他	耳鼻咽喉科	甲状腺髄様癌4症例に対 する治療経験	日本内分泌外科学会雑誌 41 巻Suppl. 1 Page S220 (2024. 04)	Case report
64	安慶名 信也, 林 慶和, 金城 秀俊, 他	耳鼻咽喉科	頭頸部癌治療後に骨髄異 形成症候群に至った3例 の検討	頭頸部癌 50巻2号 Page209 (2024. 05)	Case report
65	伊藝 真樹, 喜 瀬 乗基, 宮平 博史, 他	耳鼻咽喉科	甲状腺乳頭癌に併発した 気管原発粘表皮癌の一例	喉頭 36巻1号 Page43- 47 (2024. 06)	Original Article
66	武田 翔吾, 真 栄田 裕行, 鈴 木 幹男	耳鼻咽喉科	頸部回旋時に生ずる嘔吐 反射が一側の過長茎状突 起により誘発されたと思 われた1例	耳鼻咽喉科臨床 補冊166 Page101 (2024. 06)	Case report
67	新崎 直輝, 鈴 木 幹男, 比嘉 輝之, 他	耳鼻咽喉科	急性中耳炎への抗菌剤投 与を拒否し乳様突起炎を 発症した1例	耳鼻咽喉科臨床 補冊166 Page120 (2024. 06)	Case report
68	又吉 健太郎, 武田 翔吾, 真 栄田 裕行, 他	耳鼻咽喉科	当初血管奇形が疑われた 孤立性線維性腫瘍の下咽 頭発生例	耳鼻咽喉科臨床 補冊166 Page135 (2024. 06)	Case report
69	屋島 福太郎, 大城 由里加, 比嘉 朋代, 他	耳鼻咽喉科	長期間持続する咽頭痛で 発症し, 当初中咽頭癌が 疑われた咽頭結核例	口腔・咽頭科 37巻3号 Page236 (2024. 08)	Case report
70	宮平 貴裕, 喜 瀬 乗基, 安慶 名 信也, 他	耳鼻咽喉科	総頸動脈に誤挿入された 中心静脈カテーテルの頸 部外切開による摘出例	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 96 巻9号 Page776-780 (2024. 08)	Original Article
71	喜瀬 乗基, 喜 友名 朝則, 鈴 木 幹男	耳鼻咽喉科	声門下狭窄と披裂軟骨脱 臼を合併した喉頭狭窄症 の1治療例	耳鼻と臨床 70巻5号 Page305 (2024. 09)	Case report
72	喜瀬 乗基, 梅 崎 俊郎, 井口 貴史, 他	耳鼻咽喉科	音声を温存する誤嚥防止 手術 (TED with TEP) が奏 効したWallenberg症候群 の1例	嚥下医学 13巻2号 Page166- 173 (2024. 09)	Original Article

73	真栄田 裕行, 安慶名 信也	耳鼻咽喉科	【てこずった症例・難治症例にどう対応するか】 喉頭気管食道領域 プロ ボックス抜去後の気管食 道瘻孔の閉鎖に難渋した 症例	JOHNS 40巻9号 Page1105- 1108(2024. 09)	Review
74	今永直也	眼科	強膜から考える中心性漿 液性脈絡網膜症の新たな 病態と治療戦略	日本眼科学会雑 誌, 128(11), 902-917, 2024	Review
75	井手健太郎, 鈴 木梨紗子, 徳地 秀祐, 他	歯科口腔外科	石灰化歯原性嚢胞様変化 を伴う上顎集合性歯牙腫 の1例	日本口腔外科学会雑誌 70 (4): 164-168, 2024. 4	Case report
76	杉村朋子	琉球大学病院	COVID-19流行下における 発熱を原因としたドクター ヘリ不搬送患者の検討.	高知県医師会雑誌. 30(1)201-207.	Original Article
77	杉村朋子	琉球大学病院	化膿性脊椎炎に対する 培養採取とドレーン留置 の検討. 高知県医師会雑 誌. 29(1)97-102. 2024. 03.	高知県医師会雑誌29(1)97- 102. 2024. 03.	Original Article
78	大城 菜々子, 古波蔵 健太郎	血液浄化療法部	透析患者の心不全治療に おけるARNIへの期待	日本透析医学会雑誌39巻 3号. 2024年12月. P519-525.	Review
79	古波蔵 健太 郎, 上江 洸 良尚, 田仲 秀明, 森田 ゆかり	血液浄化療法部	糖尿病性腎症重症化予防 に向けた取組みと展望 地域レベルにおける慢性 腎臓病重症化予防システ ムデザイン	病尿病合併症38巻1号. 2024年6月. P51-54.	Original Article

計79件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 倫理審査委員会の役割・責務、意見の表示及び通知、迅速審査等に係る規程	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 1 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメント委員会の設置、臨床系利益相反審査部会の設置、利益相反アドバイザー等の設置、利益相反マネジメントの手続き、外部からの指摘への対応、秘密の保持 等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 回（定期・不定期） 年 1 6 回（臨床研究系）

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 指針統合の概要、指針のポイント、倫理審査に係る手続きの要点・研究不正・利益相反管理等	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本院の「病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、地域・社会に貢献する優れた医療人を育成する。」という理念のもとに、各診療科において専門的な分野の症例等に対する知識や技術、関連学会が定める専門医の資格取得に関する研修及び教育を実施している。

(研修事例)

- ・重症肝疾患の管理（肝移植のコーディネートも含む）
- ・炎症性腸疾患の診療及び臨床研究
- ・消化器病専門医取得
- ・消化器内視鏡専門医取得
- ・HIV患者の診療及び臨床研究 等

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	465人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
山本 和子	第一内科	教授	25 年	
金城 徹	第一内科	講師	23 年	
前城 達次	第一内科	特命講師	29 年	
仲村 秀太	第一内科	助教	21 年	
益崎 裕章	第二内科	教授	33 年	
仲地 佐和子	第二内科	講師	23 年	
岩淵 成志	第三内科	特命教授	39 年	
石田 明夫	第三内科	准教授	32 年	
崎間 洋邦	第三内科	講師	22 年	
池宮城 秀一	第三内科	助教	22 年	
當間 裕一郎	第三内科	助教	21 年	
古川 浩二郎	第二外科	教授	37 年	
永野 貴昭	第二外科	助教	31 年	
浜崎 禎	脳神経外科	教授	30 年	
外間 洋平	脳神経外科	講師	20 年	
西田 康太郎	整形外科	教授	33 年	
當銘 保則	整形外科	准教授	23 年	
神谷 武志	整形外科	講師	26 年	
東 千夏	整形外科	准教授	25 年	
仲宗根 哲	整形外科	講師	25 年	
大久保 宏貴	整形外科	講師	23 年	
中西 浩一	小児科	教授	36 年	
浜田 聡	小児科	講師	28 年	

知念 安紹	小児科	准教授	33 年	
吉田 朝秀	小児科	准教授	29 年	
金城 紀子	小児科	助教	38 年	
仲村 貞郎	小児科	助教	21 年	
高橋 健造	皮膚科	教授	38 年	
山口 さやか	皮膚科	講師	20 年	
宮城 拓也	皮膚科	助教	17 年	
柳 輝希	皮膚科	准教授	21 年	
猪口 淳一	腎泌尿器外科	教授	26 年	
仲西 昌太郎	腎泌尿器外科	講師	20 年	
木村 隆	腎泌尿器外科	助教	19 年	
芦刈 明日香	腎泌尿器外科	助教	19 年	
鈴木 幹男	耳鼻咽喉科	教授	39 年	
古泉 英貴	眼科	教授	27 年	
今永 直也	眼科	助教	15 年	
澤口 翔太	眼科	助教	12 年	
寺尾 信宏	眼科	講師	20 年	
力石 洋平	眼科	助教	17 年	
西江 昭弘	放射線科	教授	30 年	
土屋 奈々絵	放射線科	講師	18 年	
梅村 武寛	救急科	教授	25 年	
古波蔵 健太郎	血液浄化療法部	准教授	32 年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）																								
<p>・研修の主な内容【看護師特定行為研修】</p> <table><tr><td>1. 呼吸器（気道確保に係るもの）関連</td><td>1名</td></tr><tr><td>2. 胸腔ドレーン管理関連</td><td>2名</td></tr><tr><td>3. 栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連</td><td>2名</td></tr><tr><td>4. 栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連</td><td>2名</td></tr><tr><td>5. 創傷管理関連</td><td>4名</td></tr><tr><td>6. 動脈血液ガス分析関連</td><td>2名</td></tr><tr><td>7. 透析管理関連</td><td>1名</td></tr><tr><td>8. 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連</td><td>7名</td></tr><tr><td>9. 血糖コントロールに係る薬剤投与関連</td><td>1名</td></tr><tr><td>10. 術中麻酔科領域パッケージ</td><td>1名</td></tr><tr><td>11. 救急領域パッケージ</td><td>3名</td></tr></table> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>令和6年4月1日 ～ 令和7年3月21日</p> <p>・研修の参加人数 17 人（延べ 26 人）</p>			1. 呼吸器（気道確保に係るもの）関連	1名	2. 胸腔ドレーン管理関連	2名	3. 栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連	2名	4. 栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連	2名	5. 創傷管理関連	4名	6. 動脈血液ガス分析関連	2名	7. 透析管理関連	1名	8. 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	7名	9. 血糖コントロールに係る薬剤投与関連	1名	10. 術中麻酔科領域パッケージ	1名	11. 救急領域パッケージ	3名
1. 呼吸器（気道確保に係るもの）関連	1名																							
2. 胸腔ドレーン管理関連	2名																							
3. 栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連	2名																							
4. 栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連	2名																							
5. 創傷管理関連	4名																							
6. 動脈血液ガス分析関連	2名																							
7. 透析管理関連	1名																							
8. 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	7名																							
9. 血糖コントロールに係る薬剤投与関連	1名																							
10. 術中麻酔科領域パッケージ	1名																							
11. 救急領域パッケージ	3名																							
<p>・研修の主な内容【看護師特定行為研修】フォローアップ研修</p> <p>1. リハビリ室からの RRT 起動（意識障害）・検査室からの RRT 起動</p>																								

2. 心不全

3. RRS に有用なフレームワーク

4. 実践報告会

・研修の期間・実施回数

1. 4月23日（火） 13名

2. 5月29日（水） 7名

3. 8月28日（水） 7名

4. 3月21日（金） 28名

・研修の主な内容 【外来検査、音声・聴覚リハビリテーション】

・研修の期間・実施回数 2週間 2回

・研修の参加人数 それぞれ1名

・研修の主な内容【放射線障害予防に関する講習，診療用放射線の安全利用に関する講習】

・研修の期間・実施回数：年度内の限定公開によるムービー視聴とマイクロソフトフォームスによる研修報告書の提出

・研修の参加人数：655人

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容：病棟との腹膜透析における管理方法について

・研修の期間・実施回数：年1回

・研修の参加人数：約90名（保健学科学生）

③	他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：【琉球大学病院 Ryukyu Expert Nurse育成研修 院外向け】 ・対象：看護師 ・専門領域：創傷ケアナース育成プログラム ・研修の期間・実施回数：令和6年5月～令和7年3月（第2月曜日） ・研修の参加人数：4人 	
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容 【頭頸部外科手術研修】 ・研修の期間・実施回数 1日・3回 ・研修の参加人数 1名/回 	
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容【令和6年度沖縄県認知症疾患医療センター症例検討会】 ・研修の期間・実施回数 令和6年8月20日（火）18時～19時・1回 ・研修の参加人数 28名 	
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容 【令和6年度沖縄県認知症疾患医療センターWeb研修会】「CDRを用いた実践的評価-REQEMBI導入に際して-」 ・研修の期間 令和6年5月9日（木）午後7時から午後8時 実施回数 1回 ・研修の参加人数 40人 	
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容 【児童思春期診療・カンファレンス】 ・研修の期間・実施回数 通年・6回（5月・6月・7月・12月・2月・3月） ・研修の参加人数 延べ7名 	

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 鈴木 幹男	
管理担当者氏名	総務課長 大城光雄、医事課長 後藤哲也、検査・輸血部長 鈴木幹男、手術部長 西田康太郎、放射線部長 西江昭弘、医療の質・安全管理部長 垣花学、感染制御部長 山本和子、ME機器センター長 梅村武寛、薬剤部長 中村克徳、看護部長 眞榮城智子、診療情報管理センター長 平田哲生	

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	診療情報管理センター
		看護記録	診療情報管理センター
		検査所見記録	診療情報管理センター
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	診療情報管理センター
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療情報管理センター
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課、管理課 各診療科
		高度の医療の研修の実績	総務課、各診療科
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	患者安全推進室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	患者安全推進室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	患者安全推進室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	患者安全推進室

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策室	各課・診療科・関連部署で適切に管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	琉球大学病院における医薬品安全管理実施要項	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部→未承認薬については医事課 適応外禁忌使用について薬剤部掌握委員会にて審議	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	琉球大学病院における医療機器安全管理実施要項	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター			

		保 管 場 所	管 理 方 法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	琉球大学病院における医療の質・安全管理規程	各課・診療科・関連部署で適切に管理している。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	琉球大学病院における感染対策取扱要項	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	琉球大学病院診療情報管理センターにおける診療記録管理運用要項	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	琉球大学病院診療情報管理センターにおける診療記録管理運用要項	
		医療安全管理部門の設置状況	琉球大学病院における医療の質・安全管理規程	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	琉球大学病院高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関する規程	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	琉球大学病院高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関する規程	
		監査委員会の設置状況	国立大学法人琉球大学医療安全監査規程	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	琉球大学病院におけるインシデント又は医療事故並びに死亡事例発生時の報告取扱要項	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	患者安全推進室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	琉球大学病院医療安全相談室運営要項 琉球大学病院医療安全相談窓口運営要項	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	琉球大学病院における医療安全管理の適正な実施の疑義に関する情報提供に関する取扱細則	
		職員研修の実施状況	各診療科、各中央診療施設等	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のた	総務課、患者安全推進室、薬剤部、ME機器センター	

	めの研修の実施状況		
	管理者が有する権限に関する状況	総務課	
	管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課	
	開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 鈴木 幹男
閲覧担当者氏名	総務課長 大城 光雄
閲覧の求めに応じる場所	管理・研修棟3階 小会議室
閲覧の手続の概要 閲覧の求めがあった場合、閲覧対応者が個別に対応する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延	0	件
閲 覧 者 別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本院における安全管理に関する基本的な考え方 2. 医療に係る安全管理のための組織に関する基本的事項 3. 医療に係る安全管理のための研修等に関する基本方針 4. 本院における医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 患者と医療従事者との間の情報共有に関する基本方針 7. 患者等からの相談への対応等に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理の対策及び教育に関すること。 2. 医療事故及びインシデント（以下「医療事故等」という。）の判定に関すること 3. リスクマネジメント・マニュアルに関すること。 4. 医療事故等が発生したときにおける事実確認，分析，調査検証等及び対策に関する こと。 5. 医療事故等の分析等結果を活用した改善のための方策の立案，実施及び実施状況の 確認等に関すること。 6. 医療事故等が発生したときにおける患者及び家族等への対応に関すること。 7. 医事紛争が生じたときの拡大防止策に関すること。 8. 訴訟が提起されたときの対策に関すること。 9. 関係機関等への報告に関すること。 10. その他安全管理，医療事故等，医事紛争及び訴訟の重要事項に関すること 	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 4回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <p>第1回 7部署合同医療安全・医薬品・医療機器・医療放射線研修会</p> <p>第2回 チームSTEPPS研修会</p> <p>第3回 チームSTEPPS研修会</p> <p>第4回 医療安全概論</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>安全確保状況報告書を毎月部署で作成し提出している。</p> <p>特に3b以上の事例や警鐘事例は別途、改善策報告書を提出している。</p> 	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 感染対策委員会の設置 3. 感染対策室および感染対策実務者会議の設置 4. 職員研修について 5. 院内感染発生状況及び抗微生物薬使用状況の把握と報告 6. 院内感染発生時の対応 7. 院内感染対策指針の閲覧に関する対応 8. 院内感染対策の推進 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染対策マニュアルの改訂・作成に関すること 2. 耐性菌発生状況および対策に関すること 3. 希な耐性菌発生時の保健所との連携や感染対策に関すること 4. 院内感染症発生状況に関すること 5. アウトブレイクの報告と対策に関すること 6. 感染対策研修会に関すること 7. ワクチン接種事業 8. 抗菌薬使用状況 9. 国公立感染対策協議会からの情報報告 10. 地域連携施設との相互チェック結果と改善内容に関すること 11. 手指衛生遵守率向上に向けての活動報告 12. 針刺し・切創・粘膜曝露発生報告 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> ・ 2024 年 9 月 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 回感染対策・抗菌薬適正使用研修会 <ol style="list-style-type: none"> 1. 新型コロナウイルス感染症について 2. あらためて見直そう！！PPE（N95 マスク・フェイスシールド編） 3. 指針のテスト 計 1,544 名受講 ・ 2024 年 11 月 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2 回感染対策・抗菌薬適正使用研修会 <ol style="list-style-type: none"> 1. 適切な検体採取シリーズ Diagnostic stewardship の取り組み③ ～let's「良い」尿を採ろう～ 	

2. 経口抗菌薬の適正使用について 計 1,548 名受講

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)
 - ・ その他の改善のための方策の主な内容 :
1. 毎週ICTミーティングを開催し、耐性菌発生の状況や現在実施している感染対策に関する情報をICTで共有している。
 2. ICTメンバーで、アウトブレイクの情報と対策の状況について確認を行う。
 3. 感染管理認定看護師にて日々の耐性菌分離状況を確認し、経路別予防策について病棟と情報共有を図っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る
措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<ul style="list-style-type: none"> 研修の主な内容：抗がん剤血管外漏出時の処置・対応フローチャートの改訂点について 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 手順書の作成 (有) 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 医薬品の採用 2) 医薬品の購入 3) 薬剤部における医薬品の管理 4) 病棟・各部門への医薬品の供給 5) 外来患者への医薬品使用 6) 病棟における医薬品の管理 7) 入院患者への医薬品使用 8) 医薬品情報の収集・管理・周知 9) 手術・麻酔部門、救急部門・集中治療室、輸血・血液管理部門、血液浄化部門、臨床検査部門、画像診療部門、外来化学療法部門、歯科領域における医薬品の管理と使用 10) 他施設との連携 11) 在宅患者への医薬品使用 12) 放射線医薬品 13) 院内製剤 <p>手順書に基づいた実施状況の確認：遵守状況のチェックを各部署で実施し、医薬品安全管理責任者が確認。問題があれば改善指導を行う。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 医薬品に係る情報の収集の整備 (有) 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)： <ul style="list-style-type: none"> その他の改善のための方策の主な内容： <p>適応外禁忌使用の運用について 適応外使用する場合は、医薬品安全管理専門委員会へ「使用申請書」を提出し審議、使用する。 医薬品の使用による生命への影響の大きさによりリスク分類し、審議方法を決めている。 禁忌使用については、原則使用前審議としている。</p> <p>令和 6 年度の申請数 適応外使用：120 件 禁忌使用：2 件 院内製剤：3 件</p>	

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 122 回
<p>・ 研修の主な内容： 従事者に対する医療機器安全使用のための研修実施。 人工心肺装置/補助循環・人工呼吸器・血液浄化装置・除細動器・保育器ほか、医療機器の取り扱いや留意点の周知、新規導入機器への安全研修を実施している。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 医療機器安全管理専門委員会において策定した点検計画に基づいて実施。</p> <p>臨床工学技士は、適宜、メンテナンス講習を受講(各機器メンテナンス認定証発行)、保守点検を行っている。ME機器管理システムに、機器情報・保守点検記録・故障修理履歴を保管している。ME機器センターが中央管理している機器に関して、日常点検及び定期点検を実施している。ME機器センターで対応できない機器に関しては、メーカー保守点検契約を結び対応（メーカー対応機種は麻酔器、人工心肺装置、放射線関連装置等）としている</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：ME機器センターとしての対応はなし</p> <p>厚生労働省のHPや、PMDA, PMDAナビ及び、メーカーからの不具合情報をME機器センターで収集し、臨床工学部門で共有している。得られた情報は、院内に該当する機種があるか判断し、各部署に周知徹底している。</p> <p>勤務体系に合わせ個別対応も行っている。診療に支障が出ない範囲で、院内機器の統一化を図り、取り扱いの煩雑さを軽減、医療機器の安全性を高めるようにME機器センターで取組んでいる。</p> <p>毎月 1 回、「医療機器安全管理専門委員会」にて、インシデント及びアクシデントの報告、点検修理状況を周知し各部門が集まり対策を図っている。更に毎週金曜日に、定期カンファレンスにて患者安全推進室を中心として各部門が集まり対策している。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>院内全体へ周知の必要な事案が発生した場合は、ME機器センターよりお知らせの発行や、看護部・患者安全推進室と協力し、研修や情報の共有・周知を行っている</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格（医師・歯科医師） ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 <p>1. 医療安全管理責任者は、本院の副病院長又は病院長補佐のうちから常勤の医師又は歯科医師をもって充て、病院長が指名する。</p> <p>2. 医療安全管理責任者は、病院長の指揮を受け、医療の質・安全管理部、医療の質向上委員会、医療の質向上対策室、医療安全管理委員会、安全管理対策室、医薬品の安全使用のための責任者（医薬品安全管理責任者）及び医療機器の安全使用のための責任者（医療機器安全管理責任者）並びに診療用放射線の安全利用のための責任者（医療放射線安全管理責任者）を統括する。</p>									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 2 名）・								
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <p>医薬品に関する情報は、主に医薬品情報室担当主任が、PMDA、厚生労働省、製薬会社等の HP や MR からの通知文書、学会等の各種ガイドライン等から収集している。必要に応じて情報を整理し、DI 情報を作成し院内へ配布（電子カルテへ情報掲載）し周知している。また電子カルテ内の医薬品情報検索システム（JUS.DI）を利用し院内採用薬の情報を整理している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <p>適応外禁忌使用については、調剤時及び病棟薬剤業務時に主治医へ疑義照会し、その内容・結果を記録し、その情報を収集・分析し、医薬品安全管理責任者へ毎月報告している。これらの情報は、定期的に病棟・診療科へ周知している。また適応外使用・禁忌使用の申請を医薬品安全管理専門委員会へ提出し使用について審議することとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者の指名の有無（ 有 ） ・ 担当者の所属・職種： <table border="0"> <tr> <td>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr> <tr> <td>（所属： ， 職種 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr> <tr> <td>（所属： ， 職種 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr> <tr> <td>（所属： ， 職種 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr> </table>		（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）
（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（有）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>(1) 当院インフォームドコンセント(以下、IC)ガイドラインに基づき、診療情報管理センター長(IC管理責任者)にて説明同意書の内容監査実施している。評価で要件を満たしていない場合には、評価票を依頼元へ返却し改善を促している。</p> <p>(2) 質的監査において IC 記事記載における項目を設け内容を確認し、診療記録分野専門部会、診療情報管理センター運営委員会、病院運営委員会、各診療科へ報告し、記載改善を促している。</p> <p>(3) 2019 年 8 月より IC 記事記載におけるテンプレートを作成し、運用開始している。</p> <p>当院の臨床指標項目に「全身麻酔手術 IC 時テンプレート記載率」を設定し毎月集計を行い、医療の質向上対策室分析担当者会議へ報告している。また定期的にモニタリングを行う項目に当指標を定め、目標値を設定している。電子カルテ内でもモニタリング項目一覧とその結果をグラフで表示し、職員へ周知を行っている。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>琉球大学病院 診療記録監査要領に基づき監査を実施している。</p> <p>(1) 量的監査：全退院患者を対象として、記載不備等があれば各診療科へリストを送付し改善を促す。</p> <p>(2) 質的監査：(毎月)医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、診療情報管理士にて構成された監査員が、毎月無作為に選んだ退院患者の監査を行っている。(退院数約 4%の症例数)</p> <p>(年 1 回)相互監査(各診療科医師：19 名、看護師・薬剤師・診療情報管理センターにて構成)が、無作為に選んだ退院患者の診療科間相互監査を行っている。(1 診療科 3 症例)</p> <p>結果は、診療記録分野専門部会、診療情報管理センター運営委員会、病院運営委員会、各診療科へ報告し、記載改善を促している。</p> <p>(3) 2021 年 7 月より外来及び入院初期記録テンプレートを作成し、運用開始している。月次質的監査の診療科へ結果報告の際、テンプレート記載率も併せて報告を行っている。また、当院の臨床指標項目に「入院初期記録テンプレート記載率」を設定し毎月集計を行い、医療の質向上対策室分析担当者会議へ報告している。左記記載率については、定期的にモニタリングを行う項目に当指標を定め、目</p>	

標値を設定している。電子カルテ内でもモニタリング項目一覧とその結果をグラフで表示し、職員へ周知を行っている。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有

・所属職員：専従（5）名、専任（0）名、兼任（17）名

うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（9）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名

うち看護師：専従（3）名、専任（0）名、兼任（3）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

1. 安全管理対策に関わる実施状況の調査及び把握に関すること。
2. 安全管理対策に関わる職員等の教育研修の実施及び意識向上の状況確認並びに具体的な指導方法に関すること。
3. リスクマネジメント・マニュアル改正に関すること。
4. 医療事故等及び死亡事例に係る発生原因の調査、分析並びに関係部署に対する指導、助言に関すること。
5. 医療事故等及び死亡事例に係る診療録・看護記録等への記載が正確かつ十分になされているかの確認及び必要な指導に関すること。
6. 医療事故等及び死亡事例発生時における患者及び家族に対する説明等の対応状況の確認及び指導に関すること。
7. 医療紛争の原因の調査及び分析に関すること。
8. 琉球大学病院医療安全管理委員会（以下「医療安全管理委員会」という。）の資料及び議事録の作成並びに保管、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。
9. 医療安全相談室に関すること。
10. その他、医療安全対策の推進及び連絡調整に関すること。
11. 平時におけるモニタリング事項

①毎月測定している項目

- ・インシデント報告件数、事象レベル別・内容別割合、同一事例報告の全体に占める割合、医師・歯科医師の報告件数（診療科別）、部署別報告件数
- ・転倒転落件数、転倒転落率、受傷率、骨折件数
- ・患者誤認件数、内容別件数
- ・インスリン・麻薬関連の報告件数

- ・薬剤関連インシデントの内容別件数（内服薬・注射薬・外用薬）
- ・経口抗血栓薬休薬の説明・同意文書使用件数（診療科別）

②半期～1年ごとに測定している項目

- ・インシデント報告の職種別割合
- ・転倒転落インシデント報告のあった患者の危険度（Ⅰ～Ⅲ）別割合
- ・転倒転落インシデントの発生場所・発生時間帯・年齢別割合・離床センサー使用状況
- ・チューブ類の予定外抜去件数および事象レベル別割合
- ・離院件数の推移

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（1件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・活動の主な内容：
 高難度新規医療技術を用いた医療提供申請書の提出があった場の内容確認、及び評価委員会に対して高難度医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求めること。適否結果の通知、定期的な診療録等の記載内容確認、従業者の遵守状況の確認等。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（2件）、及び許可件数（2件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）

・活動の主な内容：

未承認新規医薬品等を用いた医療提供申請書の提出があった場の内容確認、及び評価委員会に対し未承認新規医薬品等の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求めること。適否結果の通知、定期的な診療録等の記載内容確認、従業者の遵守状況の確認等。

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 183 件

・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 183 件

・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

1. 院内死亡事例及び管理者が定める水準以上の事例については、毎月 GRM が内容を把握し管理者に報告している。
2. 個々の事例については、週 1 回のカンファレンス、分析担当者会議、医療安全管理委員会で分析、検討している。
3. 適宜マニュアルの改訂、院内巡視、当該部署へのヒアリングと M&M カンファレンスを行っている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・ 他の特定機能病院等への立入り（ 有（病院名：奈良県立医科大学附属病院））

・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ 有（病院名：岡山大学病院））

・ 技術的助言の実施状況

・ 「インシデント報告件数が少ない診療科へ積極的に周知し報告を促す」という助言に対して、該当診療科に報告の必要性・目的を明確に伝え、意義を再認識してもらうよう対応している。

・ 「K 剤の取り扱いについて、ポケットマニュアル等で周知することが望まれる」という助言に対して、マニュアルを改訂し周知することを検討している。

・ 「高難度新規医療技術の審議体制について、院外委員の検討の余地あり」という助言に対して、中立性と専門性の担保を目的に、院外委員の登用を検討している。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

1. 患者およびその家族等からの診療・看護等に関する相談や苦情に対応するため「患者サポート相談窓口」を設置している。
2. 相談窓口では、患者支援センターの社会福祉士が初期対応を行い、週1回のカンファレンスにて情報共有および対応方針を協議している。カンファレンスのメンバーは、社会福祉士、看護師、臨床倫理士、医事課医療環境係職員で構成されており、ケースに応じて関係職員が参加する。
3. 相談記録は電子カルテまたは所定様式（匿名相談）に入力したものを患者支援センターで保管する。
4. 対応時間は、平日の8時30分から17時15分までとし、相談受付時間は平日の8時30分から16時30分までとする。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

○令和6年度新規採用職員オリエンテーション（R6.4.1）【176/176名受講】

○令和6年度中途採用者・復職者対象Web研修（R6.5.1以降毎月実施）【106/106名受講】

「第1回」令和6年6月4日～7月3日

上映会：①令和6年19日14：00～

②令和6年6月20日16：30～

③令和6年6月24日16：00～

インシデント管理システム Safe Master 内 e-Learning 視聴

「医療と法」講師：水沢亜紀子（皆川法律事務所 弁護士 医学博士）参加延べ人数：1747人

「第2回」

令和6年6月24日 15:30～

「7部署合同医療安全職員研修会」

講師

1) 西平淳子（安全管理対策室 医師 GRM）

- 2) 難波 有智（薬剤部 薬剤師）
- 3) 安富 翔（医療技術部臨床工学部門 臨床工学技士）
- 4) 平田 哲生（診療情報管理センター医師）
- 5) 土屋 奈々絵（医療技術部 放射線部門 放射線科医師）
- 6) 糸数 康（施設運営部 環境整備課）
- 7) 島袋 朝輝（医事課）

参加延べ人数：1747 人

「第 3 回」

令和 6 年 7 月 11 日

「チーム STEPPS」

講師

奥村耕一郎（沖縄クリニカルシミュレーションセンター安全管理担当 特命教授 医師 GRM）

参加延べ人数：30 人

「第 4 回」

令和 6 年 9 月 26 日

「チーム STEPPS」

講師

奥村耕一郎（沖縄クリニカルシミュレーションセンター安全管理担当 特命教授 医師 GRM）

参加延べ人数：18 人

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

2024 年度特定機能病院管理者研修（継続）

受講者：管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

2021 年 3 月に日本医療機能評価機構による「一般病院 3」の訪問審査を受審し、2021 年 8 月に同機構の補充審査を受審した。その結果、条件付き認定という形で 2022 年 5 月 31 日までの期間で認定された。2022 年 5 月に確認審査を受審し条件が解除され、2025 年 5 月 29 日までの期間で正式に認定を受けた。

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

2021 年 8 月に受審した補充審査結果は、病院ホームページに掲載した。また、2022 年 5 月に受審した確認審査結果についても病院ホームページに掲載した。

・ 評価を踏まえ講じた措置

「安全確保に向けた情報収集と検討」については、報告件数の増加に向けた取り組みや分析・検討の機会の拡充が望まれること、手術室におけるオカレンス事例把握の展開を期待したいとの指摘があった。2020 年、医師・歯科医師の報告基準を作成し周知を行い、職員研修等で全職員へ啓発した。翌年から多職種の視点で多面的な改善策立案のため、同一事例報告推奨を開始した。2 年間で医師報告数/全報告数 288/2580 件→478/3317 件、同一事例報告の全報告に占める割合は 19%→27%と増加した。報告部署（診療科）と安全管理部門との双方で分析し、追加の改善策立案等を記載することができるよう既存の改善策報告書を修正した。インシデント発生の 3 ヶ月目以降に安全管理部門が巡視して状況確認を行い、PDCA サイクルを回している。警鐘事例の発生時は、日本医療機能評価機構等の医療安全情報を活用して安全ニュースを作成し、可能な限り早期に職員へ注意喚起している。月末のリスクマネジャー会議で、当該月に発行された安全ニュースの再周知を行っている。

医療の質の向上に向けた取り組みについて、CI・QI データの収集は行われているが、データを活用するまでには至っておらず、自施設の立ち位置がわかるような仕組みづくりなど更なる活動が求められるとの指摘があった。上記指摘を受けて、以下の対策を講じた。

- ① 各 QI について他院とのベンチマークを行い目標値の設定
- ② 会議体による評価、電子カルテへの掲載など継続的なモニタリング
- ③ 医療の質のバラツキを低減し質の向上を目的とした QC サークル活動の立ち上げ
- ④ 各サークルの活動についての院内発表会、上位サークルの表彰

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 (国立大学法人琉球大学病院長選考等規程) 第4条 病院長は、次に掲げる要件を満たす者とする。 (1) 医療法（昭和23年法律第205号）第10条第2項の条件を満たす者 (2) 医療安全確保のために必要な資質及び能力を有している者 (3) 病院の管理運営に必要な資質及び能力を有している者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 ） ・ 公表の方法 大学ホームページで公表 https://www.u-ryukyu.ac.jp/aboutus/byointyo/

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 ） ・ 公表の方法 大学ホームページで公表 https://www.u-ryukyu.ac.jp/aboutus/byointyo/ 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
木暮 一啓	理事・副学長（国際交 流・渉外・広報担当）	○	学長が指名する理事	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
島居 剛志	理事・副学長（総務・ 財務・施設担当）		学長が指名する理事	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
中西 浩一	大学院医学研究科長		役職指定	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
高槻 光寿	大学院医学研究科教 授		大学院医学研究科から選出された教員	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
西江 昭弘	放射線科長（大学院医 学研究科教授）		病院から選出された教員	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
垣花 学	副病院長（院長代行・ 医療安全担当）、大学 院医学研究科教授		学長が指名する病院副院長	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

平安 明	沖縄県医師会副会長		学長が委嘱する学外有識者 沖縄県医師会の副会長として、医療、 保健について、豊富な知見を有してい る。	有・ <input type="checkbox"/> 無
山内 昌満	沖縄県保健医療介護 部医療介護統括監		学長が委嘱する学外有識者 沖縄県の健康福祉に係る担当責任者として県内の医療事情に精通し、医療・ 保健・福祉全般に豊富な知見を有して いる。	有・ <input type="checkbox"/> 無
神里 みどり	公立大学法人沖縄県 立看護大学理事長兼 学長		学長が委嘱する学外有識者 沖縄県の医療系大学の学長として、医 療教育に関する豊富な知見を有してい る。	有・ <input type="checkbox"/> 無
眞榮城 智子	琉球大学病院看護部 長（副病院長）		学長が必要と認める者	有・ <input type="checkbox"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	
<p>・合議体の主要な審議内容 (1)運営の方針 (2)中期計画 (3)予算及び決算 (4)その他、病院の運営に関する重要な事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>各構成員は、病院運営委員会の資料及び議事要旨を学内イントラネットで閲覧することができ、 各構成員はその内容を職員へ周知することとしている。 委員会においても、各部署の長たる構成員に対し、重要事項は直接職員へ周知徹底するよう 依頼している</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
鈴木 幹男	○	医師	病院長
山本 和子		医師	第一内科長
益崎 裕章		医師	第二内科長
楠瀬 賢也		医師	第三内科長
高槻 光寿		医師	第一外科長
古川 浩二郎		医師	第二外科長
浜崎 禎		医師	脳神経外科長
西田 康太郎		医師	整形外科長
清水 雄介		医師	形成外科長
関根 正幸		医師	産科婦人科長
中西 浩一		医師	小児科長
高橋 健造		医師	皮膚科長
猪口 淳一		医師	腎泌尿器外科長
真栄田 裕行		医師	耳鼻咽喉科長（代行）
古泉 英貴		医師	眼科長
高江洲 義和		医師	精神科神経科長
西江 昭弘		医師	放射線科長
垣花 学		医師	麻酔科長
田中 秀生		歯科医師	歯科口腔外科長（代行）
川上 史		医師	病理診断科長

梅村 武寛		医師	救急科長
山田 尚基		医師	リハビリテーション科長
鈴木 幹男		医師	検査・輸血部長(代行)
西田 康太郎		医師	手術部長
奥村 耕一郎		医師	地域・国際医療部長
梅村 武寛		医師	救命救急センター長
梅村 武寛		医師	高気圧治療部長
西江 昭弘		医師	放射線部長
関根 正幸		医師	材料部長
垣花 学		医師	集中治療部長
古波蔵 健太郎		医師	血液浄化療法部長
平田 哲生		医師	医療情報部長
銘苅 桂子		医師	周産母子センター部長
和田 直樹		医師	病理部長
高槻 光寿		医師	光学医療診療部長
山田 尚基		医師	リハビリテーション部長
増田 昌人		医師	がんセンター長
平田 哲生		医師	医療情報管理センター長
中村 克徳		薬剤師	薬剤部長
眞榮城 智子		看護師	看護部長
青山 信和		診療放射線技師	医療技術部長
銘苅 桂子		医師	周産母子センター教授
市川 修		事務職	事務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（☒・無）
- ・ 公表の方法
大学のホームページで公表「国立大学法人琉球大学規則集」
- ・ 規程の主な内容
予算執行の権限として、国立大学法人琉球大学会計規則及び予算規程、人事権については、国立大学法人琉球大学組織規則、法人文書管理規定、病院規程、病院人事委員会に対応している
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
琉球大学病院副院長及び病院長補佐に関する内規を改正し（令和2年4月）、副院長、病院長補佐の役割を以下の様に明確化した。

○副院長は、次に掲げる病院長業務を分担する。
(1) 医療安全、(2) 診療、(3) 経営、(4) 教育研修、(5) 臨床研究、
(6) 看護及び患者支援、(7) その他病院長が必要と認める事項

○病院長補佐は、次に掲げる業務を分担する。
(1) 広報、(2) 研究倫理、(3) 臨床倫理、(4) 遠隔医療、
(5) その他病院長が必要と認める事項
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
2025年度 トップマネジメント研修を受講予定（鈴木病院長）

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況				<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>次に掲げる事項を審議する。</p> <p>・ 病院の医療安全に係る業務執行の状況に対する監査に関すること。</p> <p>・ 安全管理状況及び改善状況に関すること。</p> <p>・ 監査の実施に際して、病院の業務状況について病院長に報告を求め、又は必要に応じて自ら確認する。</p> <p>・ 委員会は審議の結果に基づき、学長に是正措置を講じるよう意見を提出する。</p> <p>・ 審議の結果及び前述の意見を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>大学公式ホームページおよび病院公式ホームページでの公開</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
内門 泰斗	鹿児島大学病院医療安全管理部副部長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
望月 保博	かりゆし法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
照喜名 通	NPO 法人アンビシヤス 副理事長		医療を受ける立場にある者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- （注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
<p>・ 体制の整備状況及び活動内容</p> <p>学長の下に監査室が設置されており、内部監査の実施、病院運営員会に監事及び監査室長の陪席を行っている。</p> <p>監査室による内部監査として、公的研究費（科研費やAMED、補助金等含む）の執行状況、法人文書や個人情報の管理状況、病院の業務委託管理状況等について、毎年度監査を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 専門部署の設置の有無（ 有 ）・ 内部規程の整備の有無（ 有 ）・ 内部規程の公表の有無（ 有 ）・ 公表の方法 <p>大学公式ホームページにおいて、国立大学法人琉球大学内部監査規則を掲載している。</p>

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <p>監督は役員会が行う。 高度な医療安全体制を確立するため令和元年 7 月 31 日に「国立大学法人琉球大学における琉球大学医学部附属病院の業務の監督に関する申合せ」を制定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議体の実施状況（ 年 33 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 ）（ 年 33 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 琉球大学公式 HP（規則集）で公開 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ）・ 通報件数（年 0 件）・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ）・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ）・ 周知の方法
ホームページ及び電子カルテポータルシステムでのお知らせ

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
<ul style="list-style-type: none">・ 情報発信の方法、内容等の概要・ 病院HPや病院概要により情報公開。・ 病院HP、SNS（X（旧twitter）、Facebook、LINE）を通して、地域向けのセミナーや市民講座案内、医療従事者向け研修会等の情報発信。・ 地域コミュニティラジオ（ぎのわんシティFM）にて「メディカルインフォメーション琉大病院」の放送を行っている。各診療科等の医療従事者が分かりやすく解説を加えながら、県民に多い疾患や診療科の特長について幅広く情報発信を行っている。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要・ 放射線カンファレンス：放射線科医と合同で、腎泌尿器外科における様々な症例について画像検査の詳細な解釈と治療方針の検討を行う。・ 病理カンファレンス：病理医と、泌尿器科癌を中心とした泌尿生殖器疾患の病理検討を行い、治療方針を検討する。・ 重症度の高い精神疾患を有する妊婦が入院した場合は、精神科、周産期母子センター、小児科でコメディカルも交えカンファレンスを行い問題点の共有、場合によっては児童相談所への通告や要保護児童対策協議会の開催を依頼するなどの対応をとっている。	

・児童虐待対応検討会、虐待が疑われる症例が発生した場合に、各部署対応者の招集と関連する診療科（外科・脳神経外科・眼科・整形外科など）と連携し問題解決をはかる。

・周産期カンファレンス：産科医は、新生児科医と、妊産婦、胎児、新生児の方針検討、治療の状況確認を行う。

・新生児横隔膜ヘルニアや新生児外科疾患等の患者に対して、小児外科医、臨床工学技士、麻酔科医、看護師等と連携し、患者管理を行なっている。

・頭頸部外科カンファレンス：耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、形成外科で頭頸部領域の初診症例、手術予定症例、再発症例について治療方針、術式、手術適応などについて診療科横断的にカンファレンスを実施している。毎週金曜日朝実施。

・摂食嚥下カンファレンス：リハビリテーション科医、耳鼻咽喉科医、歯科口腔外科医、薬剤師、摂食嚥下認定看護師、言語聴覚士、理学療法士、管理栄養士らと院内の摂食嚥下障害患者の症例検討を行っている。

・循環器カンファレンス：重症大動脈弁狭窄症や重症僧帽弁閉鎖不全症などの患者に対して、循環器内科医、心臓血管外科医、麻酔科医、臨床工学技士、看護師、放射線技師など、様々な職種の専門家からなるハートチームを形成し、連携して対応している。

・整形外科術前カンファレンス：近日中に手術を予定している整形外科症例に対して整形外科医師、理学療法士、作業療法士など様々な職種で周術期管理等の検討を行う

・神経内科カンファレンス：神経内科治療の症例について神経内科医師、リハビリテーション科医師が連携して対応している。

・血液内科カンファレンス：血液内科に入院している症例について血液内科医師、看護師、理学療法士、作業療法士など様々な職種で入院計画やリハビリテーションの進め方を検討する

・心臓血管外科カンファレンス：近日中に手術を予定している心臓血管外科症例に対して心臓血管外科医師、その他科医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士など様々な職種で周術期管理等の検討を行う。

・心不全サポートチームカンファレンス：心不全症例について循環器医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士など様々な職種で薬物治療やケアのあり方、リハビリテーションの進め方を検討する。

・てんかん脳波カンファレンス：月1回、精神科、脳神経外科、小児科、放射線科および生理検査室などコメディカルを交え、てんかん症例、脳波実施症例の共有、対応相談を行う。外科治療を要する例や精神症状を有するてんかん例、小児科からのキャリーオーバー例などに連携し対応する。

・児童思春期診療カンファレンス：児童精神科と小児科の両方で治療する発達障害や心身症などの疾患において、互いの専門知識を必要とする場合は、医師・心理師を中心に両科で併診して外来診察にあたっている。また、入院治療においても、小児科病棟・精神科病棟の利点を生かした協働を行っている。月1回のカンファレンスにおいても意見交換を行い、密な連携を図っている。

・認知症カンファレンス：精神科・放射線科・脳神経内科の三科が合同で、月に1回、新患カンファレンスを開き、認知症の診断や抗アミロイド抗体治療の実施状況について協議している。各科の専門的視点を持ち寄ることで診断や治療方針の精度が高まり、同時に医師間の連携強化や教育の場としても重要な役割を果たしている

・放射線治療カンファレンス：放射線科医と合同で、脳神経外科における放射線治療が必要となる様々な症例について治療方針の検討などを行っている。

・神経カンファレンス：脳神経外科・神経内科の症例について、特に治療に難渋する症例について治療方針の検討などを行っている。

・放射線治療カンファレンス：放射線科医と合同で、画像診断、治療方法、治療効果、副作用について検討を行う（耳鼻咽喉・頭頸部外科と放射線部）毎週月曜日朝に実施。

・病理カンファレンス：唾液腺腫瘍を中心に病理医と、耳鼻咽喉科医師が病理検討を行い、治療方針を検討する（耳鼻咽喉・頭頸部外科 と 病理診断科）。月2回。

・肝胆膵カンファレンス；消化器内科医（第一内科）、消化器外科医（第一外科）、放射線科医（放射線科）で月に1回の頻度で、疾患の診断、診療方針などを討議し決定している。

・皮膚病理カンファレンス：月2回の頻度で病理部と合同で病理診断について検討している。